

青武町埋蔵文化財調査報告書 第13集

HAKKANO

# 白ヶ野第1・第4遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2004

青武町教育委員会

## 序

本書は、県営農地保全整備事業（船引地区）に伴い、平成7年度及び8年度事業地で実施した白ヶ野第1・第4遺跡の調査報告書です。

白ヶ野第1遺跡では、約1万年も続いた縄文時代の資料が数多く確認され、なかでも幾何学的な文様が特徴の曾畑式土器は、県内ではあまり出土しない貴重な土器です。また、白ヶ野第4遺跡では、縄文時代早期の資料が確認され、特に石製の腕輪は当時の人々の精神文化や暮らしの様子を知る大きな手がかりとなるでしょう。

今後、これらの成果が、考古学研究の学術資料や社会教育及び学校教育の資料として広く活用され、埋蔵文化財保護への理解につながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なご協力を頂きました船引土地改良区をはじめとする地域の皆様に対し、心より厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

清武町教育委員会

教育長 湯地敏郎

## 例 言

1. 本書は、県営農地保全整備事業（船引地区）に伴う、白ヶ野第1・第4遺跡の発掘調査報告書である。
2. 図面の作成は伊東但、井田篤、

が行った。

3. 遺物・図面の整理は清武町埋蔵文化財センターにて、伊東、井田、秋成雅博、富田卓見、若杉知和（宮崎大学学生）、

が行った。

4. 植物珪酸体及びテフラ検出分析、放射性炭素年代測定等の自然科学分析は彌古環境研究所に委託した。尚、分析結果の詳細については、当報告書本文後に掲載している。
5. 本書に使用した写真は伊東・井田が撮影を行い、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。
6. 本書に使用した記号は次のとおりである。SI：集石遺構 SC：土坑
7. 本書に使用した方位は第1図・第2図が磁北で、その他は真北である。尚、レベルは海拔絶対高である。
8. 基本土層や遺構埋土等の色調は『新版 標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。
9. 本書の作成にあたって以下の方々から貴重なご指導とご助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

森田浩史、金丸武司（田野町教育委員会） 白岩修（木城町教育委員会）

（敬称略）

10. 本書の執筆・編集は伊東の協力を得て、井田が行った。

# 目 次

第1章 はじめに	
第1節 調査に到る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第2章 調査の概要	
第1節 遺跡の位置と環境	2
第2節 周辺遺跡について	2
第3章 白ヶ野第1遺跡	
第1節 調査過程について	6
第2節 基本土層について	6
第3節 遺構について	
(1) 集石遺構	9
(2) 土坑	14
第4節 包含層出土の遺物について	
(1) 縄文土器	21
(2) 弥生時代以降の土器	39
(3) 石器	41
第5節 まとめ	47
第4章 白ヶ野第4遺跡	
第1節 調査過程について	54
第2節 遺構について	
(1) 土坑	56
(2) 集石遺構	56
第3節 包含層出土の遺物について	
(1) 縄文土器	61
(2) 石器	69
第4節 まとめ	71
自然科学分析調査報告書奈良古環境研究所	75～89
調査抄録	90



# 插图目次

第1图	遺跡位置図 (1/5000) .....	3
第2图	遺跡周辺地形図 (1/3000) .....	5
第3图	白+野第1遺跡基本土層図-谷地形- (1/30) .....	6
第4图	白+野第1遺跡基本土層図-平地面- (1/30) .....	6
第5图	白+野第1遺跡遺物及び遺構分布図 (1/800) .....	7・8
第6图	SI-1, 2, 3, 4, 5, 6実測図 (1/30) .....	10
第7图	SI-7, 8, 9, 10, 11, 12, 13実測図 (1/30) .....	11
第8图	SC-40出土遺物 (1/3) .....	14
第9图	SC-7, 106, 40, 45, 77・78, 28・29, 27実測図 (1/40) .....	15
第10图	SC-58, 48, 59・60, 107, 24・25, 43, 51, 46実測図 (1/40) .....	16
第11图	包含層出土縄文土器実測図 (1) (1/3) .....	23
第12图	包含層出土縄文土器実測図 (2) (1/3) .....	24
第13图	包含層出土縄文土器実測図 (3) (1/3) .....	25
第14图	包含層出土縄文土器実測図 (4) (1/3) .....	26
第15图	包含層出土縄文土器実測図 (5) (1/3) .....	27
第16图	包含層出土縄文土器実測図 (6) (1/3) .....	28
第17图	包含層出土縄文土器実測図 (7) (1/3) .....	29
第18图	包含層出土縄文土器実測図 (8) (1/3) .....	30
第19图	包含層出土縄文土器実測図 (9) (1/3) .....	31
第20图	包含層出土縄文土器実測図 (10) (1/3) .....	32
第21图	包含層出土縄文土器実測図 (11) (1/3) .....	33
第22图	包含層出土弥生時代以降遺物実測図 (1) (1/3) .....	40
第23图	包含層出土弥生時代以降遺物実測図 (2) (1/3) .....	41
第24图	包含層出土石器実測図 (1) (2/3) .....	42
第25图	包含層出土石器実測図 (2) (2/3) .....	43
第26图	包含層出土石器実測図 (3) (2/3) .....	44
第27图	包含層出土石器実測図 (4) (2/3) .....	45
第28图	白+野第4遺跡基本土層図 (1/30) .....	54
第29图	白+野第4遺跡遺物及び遺構分布図 (1/400) .....	56
第30图	SC-1・2実測図 (1/30) .....	56
第31图	SI-1, 2, 3, 4, 5実測図 (1/30) .....	57
第32图	SI-6, 8, 9実測図 (1/30) .....	58
第33图	包含層出土縄文土器実測図 (1) (1/3) .....	62
第34图	包含層出土縄文土器実測図 (2) (1/3) .....	63
第35图	包含層出土縄文土器実測図 (3) (1/3) .....	64

第36图	包含層出土縄文土器実測図 (4) (1/3) .....	65
第37图	包含層出土縄文土器実測図 (5) (1/3) .....	66
第38图	包含層出土石器実測図 (1) (2/3) .....	70
第39图	包含層出土石器実測図 (2) (2/3) .....	71

# 表目次

第1表	周辺遺跡一覧表 (既発表) .....	4
第2表	白+野第1遺跡無石遺構観察表 .....	9
第3表	白+野第1遺跡土坑観察表 (1) .....	17
第4表	白+野第1遺跡土坑観察表 (2) .....	18
第5表	白+野第1遺跡土坑観察表 (3) .....	19
第6表	包含層出土縄文土器観察表 (1) .....	34
第7表	包含層出土縄文土器観察表 (2) .....	35
第8表	包含層出土縄文土器観察表 (3) .....	36
第9表	包含層出土縄文土器観察表 (4) .....	37
第10表	包含層出土縄文土器観察表 (5) .....	38
第11表	包含層出土弥生時代以降遺物観察表 .....	39
第12表	包含層出土石器計測表 .....	46
第13表	白+野第4遺跡無石遺構観察表 .....	58
第14表	包含層出土縄文土器観察表 (1) .....	67
第15表	包含層出土縄文土器観察表 (2) .....	68
第16表	包含層出土石器計測表 .....	69

# 图 版 目 次

图版 1 白台野第 1 遺跡 (平成 7 年度調査区) .....	12	图版 36 包含層出土縄文土器 (11) .....	51
图版 2 白台野第 1 遺跡 (平成 8 年度調査区) .....	12	图版 37 包含層出土弥生時代以降遺物 (1) .....	52
图版 3 白台野第 1 遺跡基本土層 .....	12	图版 38 包含層出土弥生時代以降遺物 (2) .....	52
图版 4 SI-1 .....	12	图版 39 包含層出土弥生時代以降遺物 (3) .....	52
图版 5 SI-2 .....	12	图版 40 包含層出土弥生時代以降遺物 (4) .....	52
图版 6 SI-3 .....	12	图版 41 包含層出土石器 (1) .....	53
图版 7 SI-4 .....	12	图版 42 包含層出土石器 (2) .....	53
图版 8 SI-5 .....	12	图版 43 包含層出土石器 (3) .....	53
图版 9 SI-6 .....	13	图版 44 白台野第 4 遺跡全景 .....	54
图版 10 SI-7 .....	13	图版 45 SC-1・2 出土 .....	56
图版 11 SI-8 .....	13	图版 46 SC-1・2 .....	56
图版 12 SI-9 .....	13	图版 47 白台野第 4 遺跡集石群 .....	59
图版 13 SI-10 .....	13	图版 48 SI-1 (1)・(2) .....	59
图版 14 SI-11 .....	13	图版 49 SI-3 .....	59
图版 15 SI-12 .....	13	图版 50 SI-2 ① .....	59
图版 16 SI-13 .....	13	图版 51 SI-2 ② .....	59
图版 17 SC-40 出土遺物 .....	14	图版 52 SI-2 ③ .....	59
图版 18 SC-40 .....	20	图版 53 SI-4 .....	60
图版 19 SC-28・29 .....	20	图版 54 SI-5 .....	60
图版 20 SC-45 .....	20	图版 55 SI-6 .....	60
图版 21 SC-43 .....	20	图版 56 SI-8 .....	60
图版 22 SC-27 .....	20	图版 57 SI-9 .....	60
图版 23 SC-51 .....	20	图版 58 石製輪轴出土状況 .....	60
图版 24 SC-106 .....	20	图版 59 包含層出土縄文土器 (1) .....	72
图版 25 SC-59・60 .....	20	图版 60 包含層出土縄文土器 (2) .....	72
图版 26 包含層出土縄文土器 (1) .....	48	图版 61 包含層出土縄文土器 (3) .....	72
图版 27 包含層出土縄文土器 (2) .....	48	图版 62 包含層出土縄文土器 (4) .....	73
图版 28 包含層出土縄文土器 (3) .....	49	图版 63 包含層出土縄文土器 (5) .....	73
图版 29 包含層出土縄文土器 (4) .....	49	图版 64 包含層出土縄文土器 (6) .....	73
图版 30 包含層出土縄文土器 (5) .....	50	图版 65 包含層出土石器 (1) .....	73
图版 31 包含層出土縄文土器 (6) .....	50		
图版 32 包含層出土縄文土器 (7) .....	50		
图版 33 包含層出土縄文土器 (8) .....	51		
图版 34 包含層出土縄文土器 (9) .....	51		
图版 35 包含層出土縄文土器 (10) .....	51		

## 第1章 はじめに

### 第1節 調査に到る経緯

平成7年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、事業区に白ヶ野第1・第4遺跡の一部が含まれることが明らかになった。遺跡の取り扱いについて、宮崎県教育委員会、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会等関係各局で協議したところ、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区については、宮崎県中部農林振興局の委託を受け清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。調査期間は、白ヶ野第1遺跡が平成7年11月22日から平成8年3月14日、及び平成8年7月22日から平成8年12月28日、白ヶ野第4遺跡が平成8年7月22日から平成8年11月10日である。また、調査面積は白ヶ野第1遺跡が17,200㎡、白ヶ野第4遺跡が1,900㎡である。

### 第2節 調査の組織

調査の組織は、次のとおりである。

調査主体 清武町教育委員会

#### 発掘調査

〈平成7年度〉

##### 事務局

教 育 長	黒 崎 改 司
教 育 次 長	岩 切 哲
社会教育課長	谷 口 忠 誓
社会教育兼文化係長	長 友 眞 一
社会教育課主事	伊 東 但

##### 調査員

社会教育課主事	伊 東 但
---------	-------

〈平成8年度〉

##### 事務局

教 育 長	黒 崎 改 司 (～平成8年9月)
	湯 地 敏 郎 (平成8年10月～)
教 育 次 長	谷 口 忠 誓
社会教育課長	戸 高 輝 利
同課長補佐兼文化係長	落 合 兼 雄
社会教育課主任	川 越 健

##### 調査員

社会教育課主任	伊 東 但
社会教育課嘱託	井 田 篤

整理作業 \*整理作業は清武町埋蔵文化財センターで実施した。

〈平成15年度〉

教 育 長	湯 地 敏 郎
教 育 次 長	古 城 員 久
社会教育課長	川 越 繁 美 (～平成15年 6 月 )
	松 元 一 夫 ( 平成15年 7 月～)
社会教育課文化係長	伊 東 但
社会教育課主任	井 田 篤
社会教育課主事	秋 成 雅 博

## 第2章 調査の概要

### 第1節 遺跡の位置と環境

清武町が位置する宮崎平野南西部は、鶴塚山系から連なる丘陵と侵食の進行したシラス台地が展開し、その間を大淀川、清武川、加江田川などが東流し日向灘へ注いでいる。台地縁辺の崖面や侵食小谷には数多くの湧水地が見られ、遺跡が立地するための好条件が備わっている。

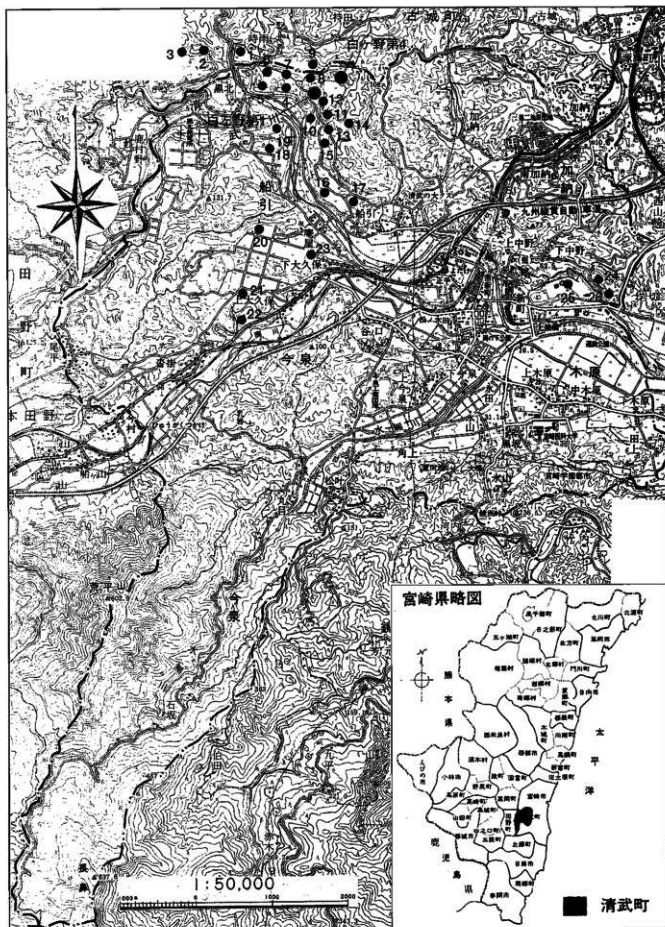
白ヶ野第1遺跡は、町内を流れる清武川の左岸標高約90mのシラス台地上に位置し、白ヶ野第4遺跡はその白ヶ野第1遺跡を見下ろす標高約100mの丘陵上に位置する。また、白ヶ野第1・第4両遺跡は、清武町の北西部船引地区に所在する。船引地区は、鎌倉時代初期に作成された『建久の図田帳』にもその名がみられる歴史の古い地区で、県の無形民俗文化財に指定されている“船引神楽”がいまなお継承され、国の天然記念物である樹齢約900年の“清武の大クス”が地区の人々の生活を見守り続けている。

### 第2節 周辺遺跡について

白ヶ野第1・第4両遺跡周辺では、昭和60年代以降県営農地保全整備事業(時屋地区)や東九州自動車建設などの大規模公共事業が幾つか実施され、それらの事業に伴う発掘調査も毎年のように行われている。

これらの発掘調査においては、旧石器時代から近世にいたるまで幅広い時期の遺構や遺物が確認されているが、特に縄文時代早期の資料については質・量ともに充実した内容となっている。

現在は各遺跡での整理作業・報告書作成作業が進行中であるが、このように同一台地上で多数の発掘調査が実施されるケースは県内でも稀であり、今後は台地全体を視野に入れた資料の総合的な整理が必要であろう。



第1図 遺跡位置図 (1/50000)

第1表 周辺遺跡一覧表(既調査)

遺跡名	調査主体	調査原因	所在地	主な時代・時期	主な遺構	主な遺物
1 (左)上の原遺跡	県 宮崎市	農地整備関係	宮崎市大字細江字時雨柳道	旧石器 縄文(早)	集石遺構	旧石器・縄文(早)土器
2 藤原形第1遺跡	県 宮崎市	農地整備関係	宮崎市大字細江字藤原形	縄文(早)	掘立柱建物・竪穴式住居 集石遺構	縄文(早)土器 弥生土器
3 藤原形第2遺跡	県 宮崎市	農地整備関係	宮崎市大字細江字藤原形	縄文(早)	集石遺構 炉穴	縄文(早)土器
4 上の原第1遺跡	県	農地整備関係	清武町大字船引字上の原	縄文・弥生 古墳	竪穴式住居 土器埋納土坑	縄文(早)土器 弥生土器
5 上の原第2遺跡	県	農地整備関係	清武町大字船引字上の原	旧石器・縄文(早) 近世	土坑・掘立柱建物 竪穴式住居・集石遺構	旧石器・縄文(早)土器 縄文土器
6 上の原第3遺跡	県	農地整備関係	清武町大字船引字上の原 宮崎市大字細江字時雨柳道	旧石器・縄文(早) 古墳	竪穴式住居 集石遺構	縄文(早)土器・須恵器 土師器・鉄器
7 上の原第4遺跡	県	農地整備関係	清武町大字船引字上の原 宮崎市大字細江字時雨柳道	縄文・弥生 古墳		弥生土器
8 白ヶ野第2遺跡	県	高速道路建設	清武町大字船引字上の原 宮崎市大字細江字時雨柳道	縄文 古代	土坑・竪穴式住居(兼付き) 集石遺構	縄文(早)土器・縄文土器 土師器
9 白ヶ野第3遺跡	県	高速道路建設	清武町大字船引字上の原 宮崎市大字細江字時雨柳道	縄文	土坑 集石遺構	縄文(早)土器・縄文土器
10 清川第1遺跡	清武町	農地整備関係	清武町大字船引字清川	縄文(早) 古代	土坑 集石遺構	縄文(早)土器
11 清川第2遺跡	清武町	農地整備関係	清武町大字船引字清川	旧石器 縄文(早)	環溝・集石遺構	旧石器 縄文(早)土器
12 清川第3遺跡	清武町	農地整備関係	清武町大字船引字清川	旧石器 縄文(早)	竪とし穴 集石遺構	旧石器 縄文(早)土器
13 山田第1遺跡	清武町	農地整備関係	清武町大字船引字山田	縄文(早)	集石遺構	縄文(早)土器
14 山田第2遺跡	清武町	農地整備関係	清武町大字船引字山田	縄文(早)	竪穴・竪とし穴 集石遺構	縄文(早)土器
15 坂元遺跡	清武町	農地整備関係	清武町大字船引字坂元	縄文(早)	炉穴 集石遺構	縄文(早)土器
16 上野ノ原遺跡	清武町	農地整備関係	清武町大字船引字上野ノ原	旧石器・縄文(早) 古代	掘立柱建物・炉穴 集石遺構・道路状遺構	旧石器・縄文(早)土器 土師器
17 下野ノ原遺跡	清武町	農地整備関係	清武町大字船引字下野ノ原	旧石器・縄文(早) 古代	道路状遺構・土坑 集石遺構・環溝	旧石器・縄文(早)土器 鉄器
18 権現原第1遺跡	県	高速道路建設	清武町大字船引字権現原	縄文・弥生 古墳・古代	竪穴式住居 集石遺構	縄文土器・弥生土器 土師器・陶器
19 権現原第2遺跡	県	高速道路建設	清武町大字船引字安ヶ野	縄文(早)	集石遺構	縄文(早)土器 縄文(早)土器
20 杉木原遺跡	県	高速道路建設	清武町大字今泉字杉木原	旧石器 縄文(早)	土坑 集石遺構	旧石器 縄文(早)土器
21 下野野遺跡	県	高速道路建設	清武町大字今泉字野原	旧石器・縄文・弥生 古墳・古代・中世	溝状遺構・竪穴式住居 集石遺構	石器・縄文土器 弥生土器・土師器
22 水ノ原遺跡	県	高速道路建設	清武町大字今泉字水ノ原	旧石器・縄文(早) 古代	土坑・掘立柱建物 竪穴式住居・集石遺構	縄文土器・縄文土器 弥生土器
23 竹ノ内遺跡	県	高速道路建設関連	清武町大字今泉字竹ノ内	旧石器・縄文 古代・中世・近世	溝状遺構・掘立柱建物 竪穴式住居・集石遺構	旧石器・縄文土器 土師器・陶器・鉄器
24 須田木遺跡	県 清武町	工場建設関連	清武町大字加納字須田木	縄文(早)・弥生 古墳・古代	竪穴式住居・土坑 集石遺構	縄文(早)土器・弥生土器 土師器
25 辻遺跡	清武町	工業団地造成	清武町大字木原字辻	縄文 弥生・古墳	集石遺構	縄文土器・土師器 須恵器
26 若宮田遺跡	清武町	農園施設建設関連	清武町大字木原字若宮田	縄文		縄文土器 土師器



第2図 遺跡周辺地形図 (1/3000)

### 第3章 白ヶ野第1遺跡

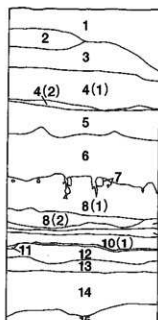
#### 第1節 調査過程について

調査前の協議において、開発側に対しできるだけ遺跡に影響の少ない工法での工事を打診したところ、大別して3つある文化層のうち最下位と中位の文化層の一部は工事の影響を受けずにすむこととなった。調査は基本的には文化層ごとに進行的したが、調査区が現代の耕作による削平を受け(1)層から(8)層まで様々な層が既に露出する状況であったため、長時間調査が必要な遺構については、他の文化層と同時に調査を実施した。

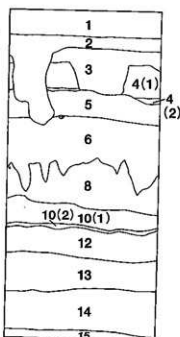
#### 第2節 基本土層について

まず遺跡の旧地形の復元を試みた結果、調査区は中央部の小規模な谷地形とそれを囲む平坦部とに大別できた。そこで平坦部・谷部の数箇所土層の確認を行ったところ、谷部では第3図、平坦部では第4図という堆積状況が確認された。この両堆積状況は(6)層まではほぼ同じ状況であるが、(7)層以下では異なった様相を呈していた。その注目すべき点としてまず挙げられるのは、(7)層すなわち“桜島薩摩テフラ”の存在である。この火山灰は平坦な地形の調査区ではほとんど確認することができず、堆積の厚い谷地形のみで明瞭な状態で確認することができる。これは近隣の遺跡でもみられる状況で、この地域に堆積したこの火山灰の厚みを物語っている。次に挙げられるのは(8)層から(12)層までの状況である。谷部で(9)層がおこし状に堆積しており、これはなんらかの原因で“霧島小林軽石層”が二次堆積したのであろうが、他ではほとんど見ることのない堆積状況である。

\*この後文章及び表などで使用する土層番号は第3図の番号参照。



1	暗褐色土層	耕作土
2	茶褐色土層	霧島高原スコリアを多く含む
3	茶褐色土層	2と同質だがスコリアが少なめ
4 (1)	橙色火山灰層	アカホヤ火山灰層
4 (2)	橙色軽石層	米粒大の軽石層
5	黒褐色硬質土層	桜島雄坂軽石を含む
6	褐色土層	褐色土がブロック状に混じる
7	黄白色火山灰	桜島薩摩テフラ
8 (1)	暗褐色土層	硬質、クラックに6が入り込む
8 (2)	灰褐色土層	9 (1)のパミスが混じる
9 (1)	灰褐色軽石層	霧島小林軽石層
9 (2)	黒褐色土層	9 (1)・10 (1)より粒が細かい
10 (1)	灰褐色軽石層	霧島小林軽石層
10 (2)	黒褐色土層	9 (1)・10 (1)より粒が細かい
11	赤褐色土層	9 (2)・10 (2)と同質、鉄分を含んだように赤化
12	暗灰色土層	シルト質で少し粘性を帯びる
13	白灰色土層	シルト質で粘性を帯びる
14	黒灰色土層	シルト質で粘性を帯びる腐植土層
15	白色シルト質層	始良入戸火砕流堆積物

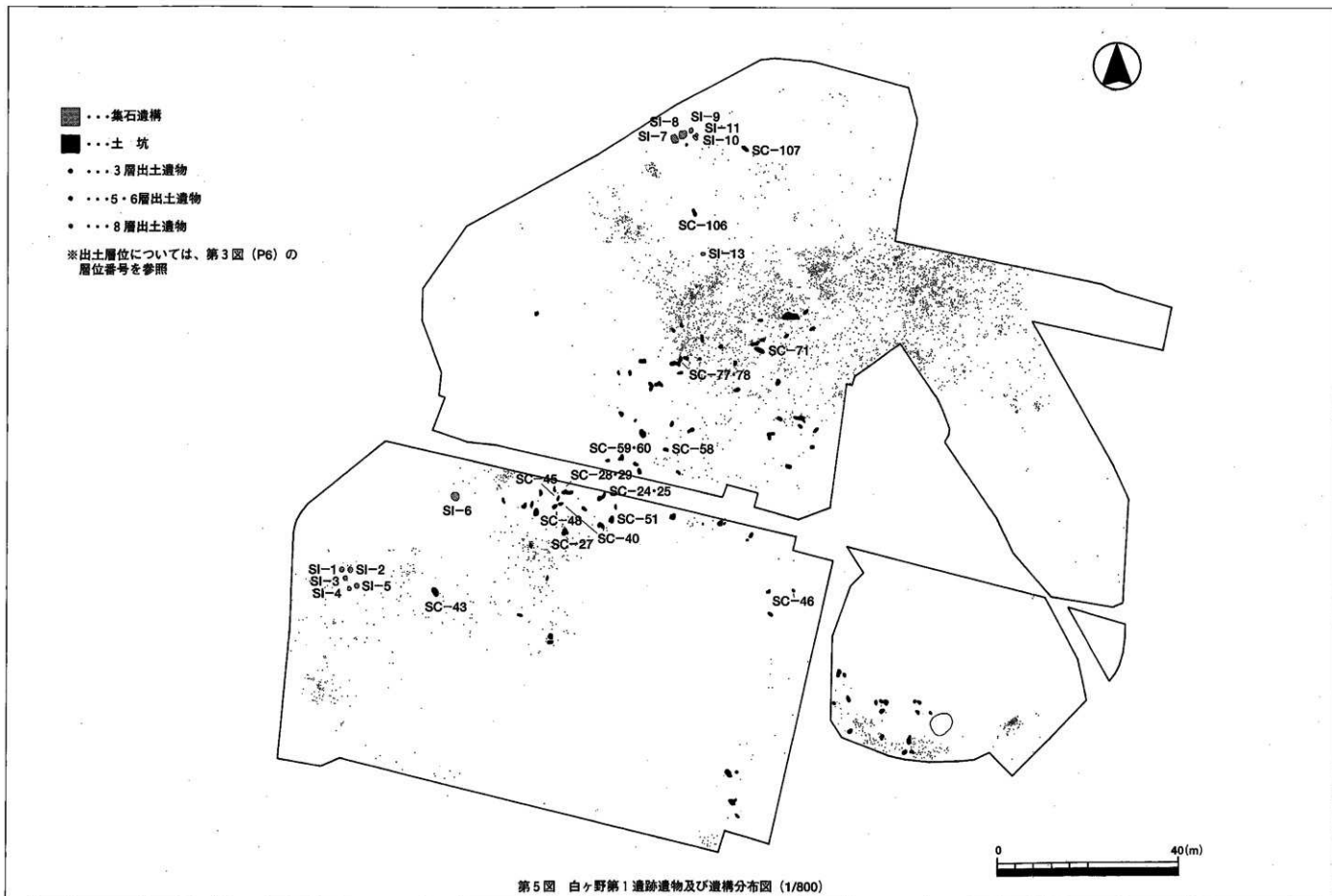


第3図 白ヶ野第1遺跡基本土層図  
—谷地形— (1/30)

0 1(m)

第4図 白ヶ野第1遺跡基本土層図  
—平坦部— (1/30)





第5図 白ヶ野第1遺跡遺物及び遺構分布図 (1/800)

### 第3節 遺構について

#### (1) 集石遺構

集石遺構は、似かよった特徴を持った集石遺構が5基まとまっているグループ [Aグループ (SI-1～SI-5)] と、大型の集石遺構2基の周りを小型の集石遺構4基が囲むグループ [Bグループ (SI-7～SI-12)]、そして単独で2基 (SI-6・13)、計13基確認されており、すべてが縄文時代早期のものである。

Aグループの5基は、礫の充填状況が密で掘り込みの形状がボール状である点はいく似ているが、配石の有無については“持つもの”“持たないもの”いずれのケースも確認されている。

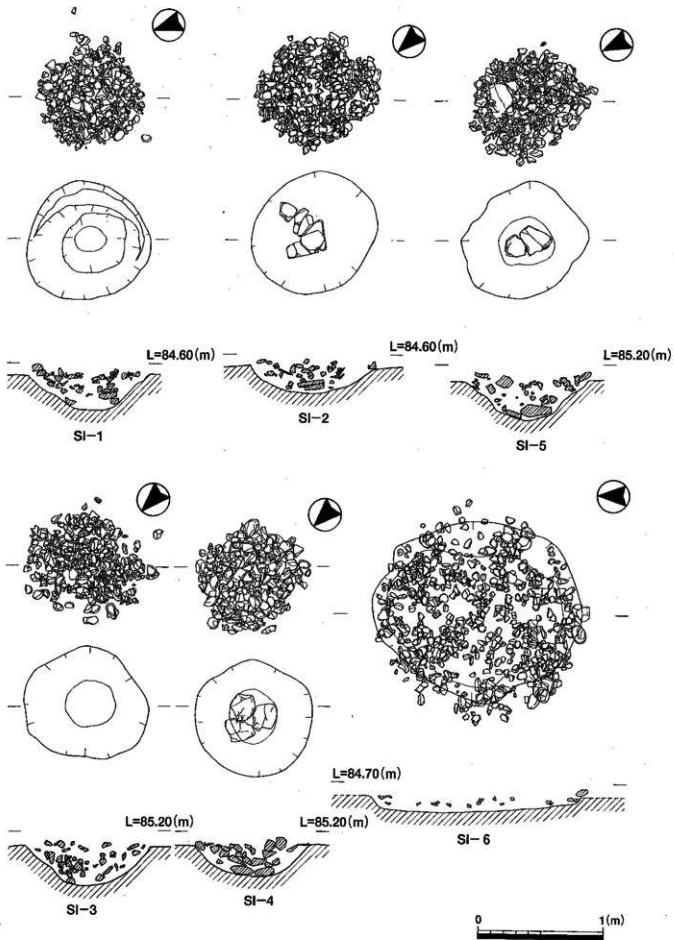
また、Bグループについては、大型の2基の集石遺構が礫の充填状況が密でV字型の深い掘り込みを持つもので、小型の4基の集石遺構は礫が極めて疎らで浅皿状の掘り込みを持つものであった。ただし、Bグループについては、現代耕作による削平及び攪乱を受けていたため、残存状態は良好とは言えない状況であった。

SI-6については、浅皿状の掘り込みを持ち礫が疎らのものであったが、放射性炭素年代測定の結果、使用時期がA・Bグループよりも500～600年程下ることが明らかとなった。またSI-13については、縄文時代早期の文化層を部分的に調査した範囲で検出されたため、周囲の状況を含めて検証することができなかった。

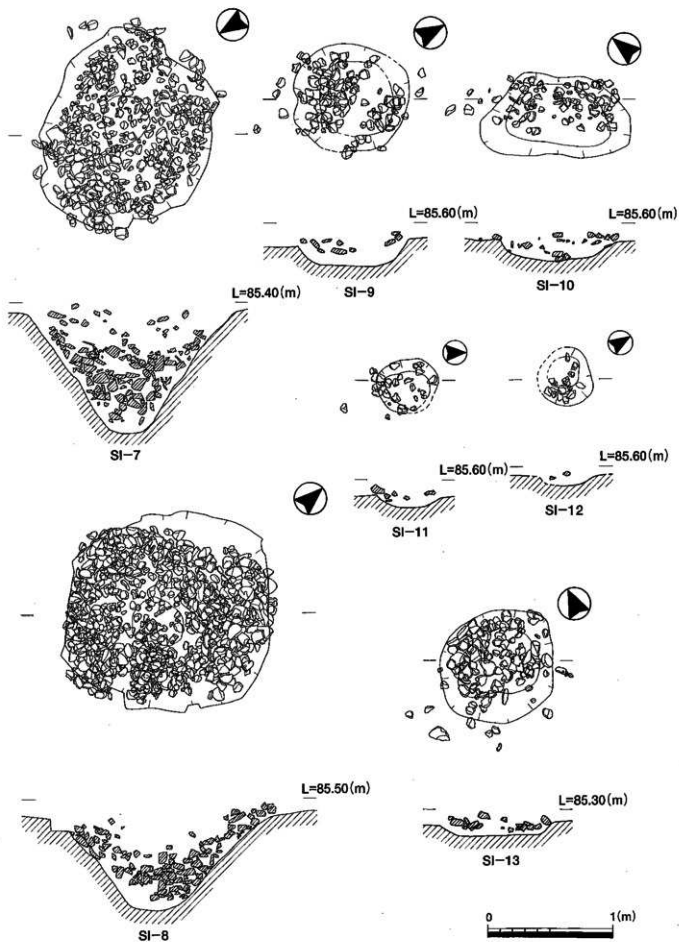
第2表 白ヶ野第1遺跡集石遺構観察表

NO	検出面	時期	C14年代	礫範囲の直径(m)	総礫数(個)	総重量(kg)	礫1個重量(kg)	掘込有無	上端深さ(m)	掘込みの深さ(m)	礫分布状況	底石有無	炭化物有無
SI-1	④	早期	8310	0.94	-	57	-	有	1	0.36	極密	無	有
SI-2	④	早期	8330	1	-	52	-	有	1	0.27	極密	有	有
SI-3	⑥	早期		1	-	41	-	有	1	0.31	極密	無	炭化粒のみ
SI-4	⑥	早期	8230	0.9	-	80	-	有	0.95	0.32	極密	有	有
SI-5	⑥	早期		1	-	73	-	有	1.05	0.4	極密	有	炭化粒のみ
SI-6	⑥	早期	7750	1.72	-	59.6	-	有	1.68	0.18	密	無	有
SI-7	⑧	早期	8210	1.8	2095	404	0.19	有	1.7	1.05	極密	無	有
SI-8	⑧	早期		1.75	1521	266.5	0.18	有	1.8	0.87	極密	無	炭化粒のみ
SI-9	⑧	早期		0.8	-	-	-	有	0.9	0.28	極疎	無	炭化粒のみ
SI-10	⑧	早期		1	80	8	0.10	有	1.2	0.23	極疎	無	炭化粒のみ
SI-11	⑧	早期		0.55	-	-	-	有	0.5	0.18	極疎	無	炭化粒のみ
SI-12	⑧	早期		0.4	-	-	-	有	0.46	0.12	極疎	無	炭化粒のみ
SI-13	⑥	早期		0.8	170	28	0.16	有	0.9	0.2	疎	無	炭化粒のみ

\*検出面については、第3図 (P6) の層位番号を参照



第6圖 SI-1、2、3、4、5、6実測図 (1/30)



第7圖 SI-7、8、9、10、11、12、13実測圖 (1/30)



図版1 白ヶ野第1遺跡(平成7年度調査区)



図版2 白ヶ野第1遺跡(平成8年度調査区)



図版3 白ヶ野第1遺跡基本土層



図版4 SI-1



図版5 SI-2



図版6 SI-3



図版7 SI-4



図版8 SI-5



图版9 SI-6



图版10 SI-7



图版11 SI-8



图版12 SI-9



图版13 SI-10



图版14 SI-11



图版15 SI-12



图版16 SI-13

## (2) 土 坑

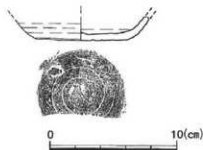
アカホヤ層上面において総数102基の土坑が検出された。遺構が集中しているのは調査区の中央付近、すなわち(2)・(3)層が厚めに堆積している谷地形の範囲で、これは近隣遺跡でも見られる傾向である。また、構築時期については、ほとんどの土坑の埋土から検出される高原スコリアの堆積状況からみて、10世紀から13世紀あたりではないかと考えられる。

形状は、大別して以下の5つのタイプに分類できる。

- (Ⅰ類) 楕円形か長楕円形を呈し、その規模は長軸が0.6mから1.5m程、短軸が0.3mから1m程、そして深さが0.1mから0.5m程のもの。
- (Ⅱ類) (Ⅰ類)の土坑で、直径が0.2mから0.4m程で深さが0.3mから1m程のピットを有するもの
- (Ⅲ類) 隅丸長方形か長楕円形を呈し、その規模は長軸が1.5mから2m程、短軸が0.6から1m程、そして深さが0.7mから1.5m程、と(Ⅰ類)と比較すると大型で深いもの。
- (Ⅳ類) 複数の掘り込みやピットが無作為に切り合っていて不定形なもの。
- (Ⅴ類) その他

\*長軸・短軸については検出面においての数値、又深さについては検出面から底面までの数値を使用している。

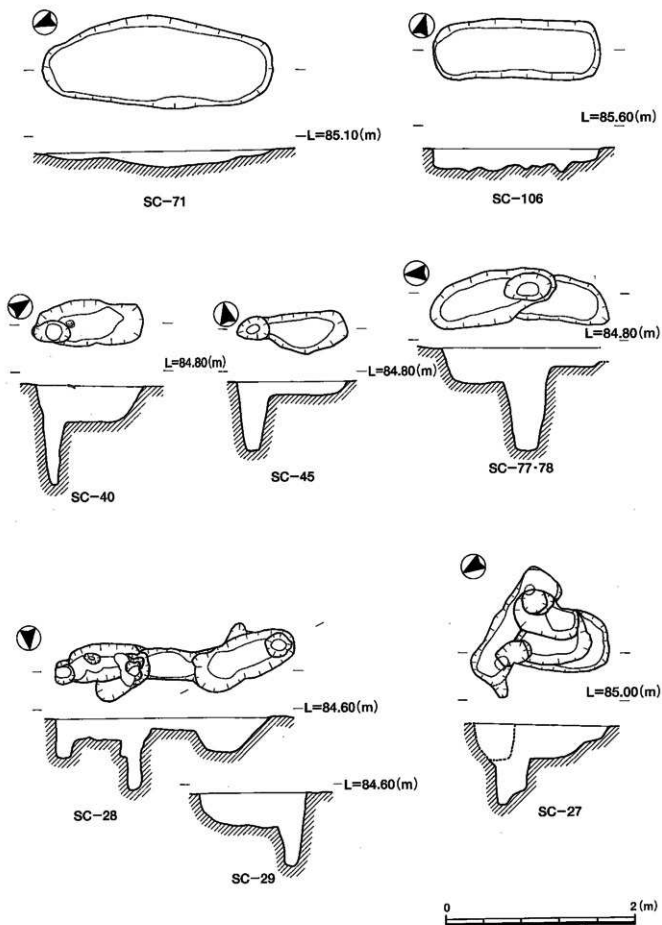
このなかで(Ⅱ類)が79基とそのほとんどを占めているが、その(Ⅱ類)の用途を考察する上で重要な意味をもつであろうピットについては、土坑との関係及び配置における規則性はいずれも確認することができなかった。また土坑からの出土遺物は、少数なうえ、そのほとんどが廃棄後流れ込んだものであるが、SC-40からはヘラ切り底の土師器の坏が出土している。



第8図 SC-40出土遺物 (1/3)

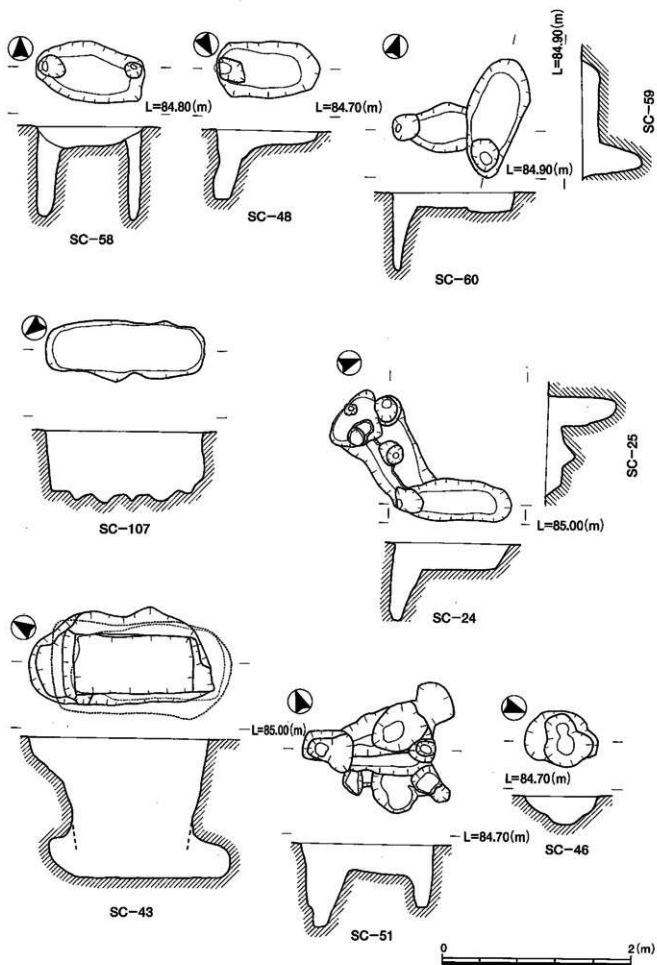


図版17 SC-40出土遺物



第9图 SC-71、106、40、45、77·78、28·29、27实测图 (1/40)





第10图 SC-58、48、59·60、107、24·25、43、51、46实测图 (1/40)

第3表 白ヶ野第1遺跡土坑観察表(1)

遺跡番号	形跡	分類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	考 察	
1	SC-1	長楕円形	II	1.46	0.73	0.3	-	北端に直径約0.3m・深さ約0.63mのピット。
2	SC-2	円形	II	1.1	0.62	0.2	-	南端にピット。
3	SC-3	長楕円形	II	1.05	0.48	0.15	-	西端に直径約0.3m・深さ0.45mのピット。
4	SC-4	楕円形	II	1.1	0.75	0.4	○ 弥生	西端にピット。
5	SC-5	長楕円形	II	1.15	0.6	0.25	-	北端に直径約0.25m・深さ0.65mのピット。 (他に浅いピットが2本)
6	SC-6	不定形	IV	0.9	0.5	0.15	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
7	SC-7	長楕円形	II	1.2	0.55	0.5	○ 弥生	東端に直径約0.25m・深さ0.8mのピット。
8	SC-8	不定形	IV	1.1	0.6	0.08~0.3	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
9	SC-9	長楕円形	II	1.05	0.6	0.15	-	東端に直径約0.2m・深さ0.8mのピット。
10	SC-10	長楕円形	II	1.1	0.6	0.15	○ 縄文・弥生	東端に直径約0.2m・深さ0.8mのピット。
11	SC-11	円形	V	0.55	0.47	0.23	-	
12	SC-13	長楕円形	V	1	0.45	0.45	-	南端に斜め下への掘り込み。
13	SC-14	長楕円形	II	0.8	0.42	0.18	-	南端に直径約0.3m・深さ0.47mのピット。
14	SC-15	長楕円形	II	1+a	0.5	0.26	-	北端に直径約0.3m・深さ0.45mのピット。
15	SC-16	長楕円形	II	1.12	0.5	0.3	-	南東端に直径約0.35m・深さ0.75mのピット。
16	SC-17	長楕円形	II	1.15	0.5	0.2	○ 弥生	北東端に直径約0.25m・深さ0.7mのピット。
17	SC-18	長楕円形	II	1.4	0.68	0.3	-	北端に直径約0.3m・深さ約0.78m、中央に直径約0.2m・深さ0.75mのピット。 (他に浅いピットが1本)
18	SC-19	楕円形	II	1.2	0.9	0.65	-	北端に直径約0.3・深さ約0.95mのピット。
19	SC-20	長楕円形	II	1.65	0.55	0.25	-	南端に直径約0.5m・深さ0.85mのピット。
20	SC-21	長楕円形	II	1	0.5	0.15	-	南端に直径約0.35m・深さ0.75mのピット。
21	SC-22(1) (2)	長楕円形 長楕円形	II I	1.22 0.85	0.55 0.35	0.45 0.8	- -	北端に直径約0.25m・深さ約1.0mのピット。 *(1)と(2)が切り合っている可能性有り。
22	SC-23	不定形	IV	1.6	1	0.5	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
23	SC-24	長楕円形	II	1.2	0.4	0.3	-	南端に直径約0.25m・深さ0.8mのピット。 *SC-25と切り合い。新旧は不明。
24	SC-25	長楕円形	II	1.05+a	0.35	0.15	-	西端に直径約0.3m・深さ0.7mのピット。 (中央付近に浅めのピットがもう1本)
25	SC-26	長楕円形	II	1.25	0.45	0.35	-	南端に直径約0.25m・深さ0.95mのピット。
26	SC-27	楕円	II	0.95+a	0.65	0.35	-	北端に直径約0.35m・深さ約0.85mのピット。 東端に直径約0.3m・深さ約0.8mのピット(他1本)。
27	SC-28(1)	長楕円形	II	0.9+a	0.4	0.2	-	東端に直径約0.2m・深さ約0.4mのピット。
	(2)	長楕円形	II	0.9+a	0.3	0.15	-	東端に直径約0.3m・深さ約0.75mのピット。 *(1)と(2)の切り合いの可能性有り。
28	SC-29	長楕円形	II	1.1	0.5	0.35	-	西端に直径約0.25m・深さ0.8mのピット。 *SC-28と切り合い。新旧は不明。
29	SC-30	長楕円形	II	1.1	0.45	0.15	-	北端に直径約0.25m・深さ約0.6mのピット。
30	SC-31	長楕円形	II	1.2	0.5	0.55	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.95mのピット。
31	SC-32	不定形	IV	0.9	0.7	0.25	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
32	SC-33	長楕円形	II	0.95	0.5	0.25	-	北端に直径約0.25m・深さ約0.7mのピット。
33	SC-34	楕円形	II	1.47	0.9	0.4	○ 弥生	北端に斜下に向け0.7m掘り込んだピット。

第4表 白ヶ野第1遺跡土坑観察表(2)

遺構番号	形態	分類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	考 察	
34	SC-35	長楕円形	II	1.35	0.35	0.17	○ 炭生	北端に直径約0.25m・深さ約0.55mのビット。
35	SC-36	不定形	IV	1.2	0.55	0.15	-	複数の廻り込みとビットの切り合い。
36	SC-37	長楕円形	II	1.2	0.3	0.15	-	北側に直径約0.15m・深さ約0.3mのビット。
37	SC-38	不定形	IV	0.8	0.45	0.2~ 0.3	-	複数の廻り込みとビットの切り合い。
38	SC-39	長楕円形	II	1.1	0.38	0.2	-	北東端に直径約0.25m・深さ約0.5mのビット。
39	SC-40	長楕円形	II	1.15	0.45	0.4	○ 土師器など	南西端に直径約0.25m・深さ約1.05mのビット。
40	SC-42	長楕円形	II	1.1	0.55	0.2~ 0.45	-	西端に直径約0.25m・深さ約0.8mのビット。 浅い土坑が2段。
41	SC-43	隅丸長方形	III	1.9	1	1.5	○ 縄文土	2段の廻り込みで、床面付近は段状を呈する。
42	SC-44	長楕円形	II	1.15	0.5	0.3	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.7mのビット。
43	SC-45	長楕円形	II	1.15	0.45	0.15	-	北西端に直径約0.3m・深さ約0.75mのビット。
44	SC-46	円形	V	0.75	0.6	0.3	-	
45	SC-47	円形	V	0.65	0.55	1	-	
46	SC-48	長楕円形	II	1.1	0.6	0.15	-	南東端に直径約0.25m・深さ約0.75mのビット。
47	SC-49	円形	II	0.75	0.7	0.2	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.6mのビット。
48	SC-50	不定形	IV	1.6	1	0.3	-	複数の廻り込みとビットの切り合い。
49	SC-51	不定形	IV	1.4	1.5	0.3~ 0.9	-	複数の廻り込みとビットの切り合い。
50	SC-52	長楕円形	II	1.05	0.6	0.1	-	南端に直径約0.25m・深さ約0.6mのビット。
51	SC-53	長楕円形	II	1.45	0.55	0.35	-	南西端に直径約0.2m・深さ約0.8mのビット。
52	SC-54	長楕円形	II	1.2	0.5	0.25	-	南東端に直径約0.35m・深さ約0.75mのビット。
53	SC-55	長楕円形	II	0.8+a	0.65	0.2	-	北東端に直径約0.25m・深さ約0.6mのビット。 一部埋没により崩壊。
54	SC-56	長楕円形	II	1.1	0.5	0.25	-	北東端に直径約0.35m・深さ約0.95mのビット。 (ビットは斜下方向に廻り込んである。)
55	SC-57	長楕円形	II	1	0.55	0.2	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.95mのビット。 西端に直径約0.25m・深さ約0.95mのビット。
56	SC-58	長楕円形	II	1.15	0.65	0.2	-	東端に直径約0.2m・深さ約0.95mのビット。 西端に直径約0.25m・深さ約0.95mのビット。
57	SC-59	長楕円形	II	1.25	0.6	0.2	-	南端に直径約0.35m・深さ約0.6mのビット。
58	SC-60	長楕円形	II	0.8+a	0.5	0.15	-	西端に直径約0.25m・深さ約0.8mのビット。 *SC-59と切り合い。SC-59が新。
59	SC-61	長楕円形	II	0.9	0.45	0.12	-	東端に直径約0.33m・深さ約0.65mのビット。
60	SC-62	長楕円形	II	1.15	0.65	0.2	-	北端に直径約0.2m・深さ約0.4mのビット。
61	SC-63	楕円形	II	0.7	0.45	0.2	-	中央部に直径約0.25m・深さ約0.6mのビット。
62	SC-64	長楕円形	II	1.1	0.45	0.2	-	南端に直径約0.25m・深さ約0.7mのビット。
63	SC-65	長楕円形	II	1.3	0.7	0.3	-	北端に直径約0.25m・深さ約0.5mのビット。 東端に直径約0.3m・深さ約0.55mのビット。
64	SC-67	長楕円形	II	1.4	0.6	0.35	-	北端に直径約0.2m・深さ約0.95mのビット。
65	SC-72	長楕円形	I	0.9+a	0.55	0.1	-	*SC-67と切り合い。新田関係は不明。
66	SC-68	長楕円形	II	0.9	0.4	0.1	-	北端に直径約0.15m・深さ約0.25mのビット。 南西端に直径約0.25m・深さ約0.4mのビット。
67	SC-69	楕円形	II	0.95	0.75	0.3	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.4mのビット。
68	SC-70	長楕円形	II	1.1	0.5	0.3	-	北端に直径約0.3m・深さ約0.65mのビット。 *SC-69と切り合い。新田関係は不明。

第5表 白ヶ野第1遺跡土坑観察表(3)

遺構番号	形跡	分類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	考	備
69	SC-71	長槽円形	I	2.4	0.95	0.2	-	-
70	SC-73	長槽円形	II	1.3+a	0.6	0.2	-	北端に直径約0.25m・深さ約0.7mのピット。 (後述のピットが3本)
71	SC-74	長槽円形	II	1.2	0.5	0.25	-	北端に直径約0.25m・深さ約0.56mのピット。
72	SC-75	長槽円形	II	1	0.55	0.3	-	南端に直径約0.3m・深さ約0.55mのピット。
73	SC-77	長槽円形	I	0.65+a	0.45	0.2	-	*SC-73と切り合い。新田関係は不明。
74	SC-78	長槽円形	II	1.35	0.55	0.4	-	南端に直径約0.45m・深さ約1.1mのピット。
75	SC-79	長槽円形	II	0.75+a	0.5	0.3	-	南西端に直径約0.5m・深さ約0.65mのピット。 *SC-80と切り合い。SC-79が断。
76	SC-80	長槽円形	II	1.5	0.5	0.3	-	中央から南端にかけて、直径約0.3m、深さ約0.6 ~0.8mのピットが3本。
77	SC-81	長槽円形	II	0.75+a	0.5	0.4	-	北東端に直径約0.3m・深さ約0.75mのピット。 *SC-82と切り合い。SC-81が断。
78	SC-82	長槽円形	II	1.35	0.5	0.4	-	東端に直径約0.4m・深さ約0.95mのピット。
79	SC-83	長槽円形	II	1.2	0.55	0.1	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.15mのピット。
80	SC-84	長槽円形	II	1.1	0.5	0.15	-	東端に直径約0.35m・深さ約0.45mのピット。 (ピットは斜下方向に掘り込んである。)
81	SC-85	長槽円形	II	1.4	0.55	0.35	-	西端に直径約0.5m・深さ約0.7mのピット。
82	SC-86	長槽円形	II	1.05	0.3	0.15	-	西端に直径約0.35m・深さ約0.6mのピット。
83	SC-87	長槽円形	II	0.8	0.45	0.2	-	北東端に直径約0.35m・深さ約0.75mのピット。
84	SC-88	長槽円形	I	1.25+a	0.5	0.4	-	*SC-89と切り合い。SC-89が断。
85	SC-89	長槽円形	II	1.4	0.6	0.3~ 0.6	-	西端に直径約0.2m・深さ約0.75mのピット。
86	SC-90	長槽円形	II	1.2	0.6	0.25	-	南西端に直径約0.4m・深さ約0.9mのピット。
87	SC-91	長槽円形	II	1	0.55	0.25	-	北端に直径約0.35m・深さ約0.6mのピット。
88	SC-92	長槽円形	II	1.85	1.15	0.35	-	北東端に直径約0.4m・深さ約0.65mのピット。
89	SC-93	円形	II	0.85	0.8	0.3	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.9mのピット。
90	SC-94	楕円形	V	0.65	0.4	0.2	-	-
91	SC-95	楕円形	V	0.55	0.3	0.3	-	-
92	SC-96	長槽円形	I	1.3	0.55	0.3	-	-
93	SC-97	長槽円形	I	0.7+a	0.5	0.2	-	*SC-96と切り合い。新田関係は不明。
94	SC-98	長槽円形	II	1.05	0.6	0.2	-	北端に直径約0.3m・深さ約0.7mのピット。 (ピットは斜下方向に掘り込んである。)
95	SC-99	長槽円形	II	1.2	0.55	0.2	-	南東端に直径約0.25m・深さ約0.7mのピット。
96	SC-100	長槽円形	II	1.2	0.6	0.2	-	北西端に直径約0.3m・深さ約0.6mのピット。
97	SC-101	長槽円形	II	1.3	0.65	0.25	-	南東端に直径約0.35m・深さ約0.7mのピット。
98	SC-102	長槽円形	I	3.5	1.6	0.4	-	浅めのピットが2本。
99	SC-103	楕円形	II	1	0.65	0.2	-	北端に直径約0.15m・深さ約0.25mのピット。
100	SC-104	長槽円形	I	1.6	0.7	0.25	-	-
101	SC-105	長槽円形	II	1	0.5	0.15	-	南東端に直径約0.3m・深さ約0.75mのピット。
102	SC-106	隅丸長方形	I	1.75	0.6	0.2	-	-
103	SC-107	隅丸長方形	III	1.65	0.6	0.7	-	-



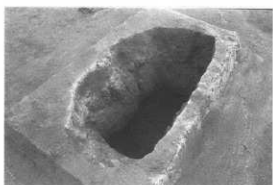
图版18 SC-40



图版19 SC-28·29



图版20 SC-45



图版21 SC-43



图版22 SC-27



图版23 SC-51



图版24 SC-106



图版25 SC-59·60

## 第4節 包含層出土の遺物について

### (1) 縄文土器

縄文土器については、早期が5層上位から6層下位、前期から晩期が3層から出土している。ここではこれらを時期ごとに5類に分類し、なおかつそれを細分化している。それぞれの特徴は以下のとおりである。

#### A類 (1~39)

A類は縄文時代早期の土器で、ここではA(1)類からA(4)類に細分化している。

##### A(1)類 (1~3)

A(1)類は、外面に貝殻条痕文を施し円筒形を呈する土器である。

##### A(2)類 (4~12)

A(2)類は押型土器である。4~8は楕円押型文を施しており、器形については胴部の小破片のみの出土のため不明である。また9~12については、山形押型文を施し、その器形からみて手向山式土器の胴部の可能性が高いと思われる。

##### A(3)類 (13~35)

A(3)は平椀式土器である。13~16は口縁部の口唇下に小型の三角形の突帯を巡らすもので、その突帯には刻目状の沈線を、外面には沈線及び刺突連点文を施している。17~35は沈線と刺突連点文を施しているが、17~19についてはそれに加え弧状の突帯を貼り付けており、その突帯には刻目を施している。

##### A(4)類 (36~39)

A(4)類は貝殻腹縁で文様が施された土器で、36は貝殻腹縁による刺突文を施した塞ノ神式土器である。また33~35は貝殻腹縁による圧痕文を施したものであるが、器形など詳細は不明である。

#### B類 (40~121)

B類は縄文時代前期の土器で、ここではB(1)類とB(2)類に細分化している。

##### B(1)類 (40)

B(1)類は轟式土器で、口縁部が1点のみ出土している。指先でつまんだようなミミズバレ状の突帯を口唇部直下から横方向に貼り付けている。

##### B(2)類 (41~121)

B(2)類は曾畑式土器である。本遺跡で出土する曾畑式土器全体の特徴として挙げられるのは、近隣の滑川遺跡で出土したものでは確認することのできた滑石の混入が見られないことである。

次に個々の遺物を見ていくと、41~102は外面に縦・横方向の沈線かもしくはその沈線に加え刺突文を施しており、内面には横方向の沈線かもしくはその沈線に加え刺突文を施している。103~105は外面に斜め方向の沈線を施し、内面は103・104が斜め方向、105は横方向の沈線を施している。106~111は、外面に縦・横方向の沈線に加え弧状の沈線を施し、内面は横方向の沈線を施している。112~115はすべて胴部であるが穿孔が確認されている。ここまで挙げた土器片の沈線については、いずれも細い棒状工具が使用されたと推測されるが、116・117についてはより先端の

尖った棒状工具を使用して外面に斜め方向の沈線を施している。その他118については波状口縁が確認され、119には口縁部の口唇下に連続刻目を施している。また120には瘤状の突帯がみられ、121では沈線を施す前の貝殻条痕文が一部残存している。

なおこのB(2)類の口唇部については、連続刻目・連続刺突文いずれも確認することができる。以上が施文的特徴であるが、器形についてはそれを断定できるだけの残存度を有する遺物が出土していないため詳細は不明である。

#### C類 (122～152)

C類は縄文時代中期から後期にかけての土器で、そのほとんどは突帯を貼り付けている。ここではC(1)類からC(4)類に細分化している。

##### C(1)類 (122～128)

C(1)類は、地文に縄文を施した後低めの突帯を貼り付け、その後細い棒状工具により沈線を施した土器である。また125についてはそれに加え貝殻条痕文を施している。器形については出土遺物すべてが小破片のため不明である。

##### C(2)類 (129～135)

C(2)類は、内・外面ともに貝殻条痕文を施した後、外面に断面三角形の突帯を貼り付けた土器で、突帯は波状・弧状・直線状などの組み合わせである。器形については出土遺物すべてが小破片のため不明である。

##### C(3)類 (136～147)

C(3)類はナデ調整を施した後突帯を貼り付けた土器である。136～139は口縁部すべてがやや内湾しており、突帯は口縁に直行するように貼り付けているが、さながらその形状は熊手を連想させるものである。140～147は胴部であるが、突帯は波状・弧状・直線状などを組み合わせて貼り付けている。

##### C(4)類 (148～152)

C(4)類は突帯を貼り付けた後、その突帯間に貝殻腹縁による押しき文を施した土器である。

#### D類 (153～199)

D類は縄文時代後期から晩期にかけての土器で、ここではD(1)類からD(4)類に細分化している。

##### D(1)類 (153～164)

網目圧痕がみられる土器である。ほとんどが丸底もしくは丸底ぎみの浅鉢と思われる。

##### D(2)類 (165～180)

口縁部外面に貫通または未貫通の連続刺突を施した土器で、孔列土器と呼ばれるものである。これらは竹管状工具で刺突しており、そのほとんどが未貫通のもので、未貫通のものには内面裏側に瘤状のふくらみがみられた。165～173は口縁部に薄手の肥厚帯を巡らせ、貝殻条痕による調整を行った後その肥厚帯直下に連続刺突を施したものである。174～179は断面が三角形の幅の狭い突帯を貼り付け、貝殻条痕による調整を行った後突帯直下に連続刺突を施したものである。また180は唯一孔

が貫通しているものであり、貝殻条痕による調整は確認できない。

D(3)類 (181~192)

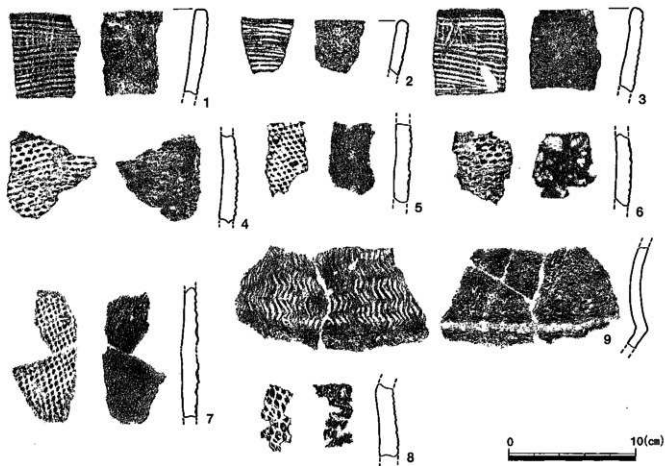
D(3)類は口縁部に肥厚帯を巡らせた土器である。181~189は肥厚帯を巡らせた後、貝殻条痕による調整を行っている。190~192は、181~189同様肥厚帯を巡らせたものにもみえるが、一方では口縁部に沈線を施すことによりあたかも薄手の肥厚帯を巡らせた様にもみえたものである可能性も考えられる。

D(4)類 (193~199)

D(4)類は胴部が屈曲する浅鉢の一部と思われる。なお、調整は外面がミガキ、内面がミガキとナデの併用である。

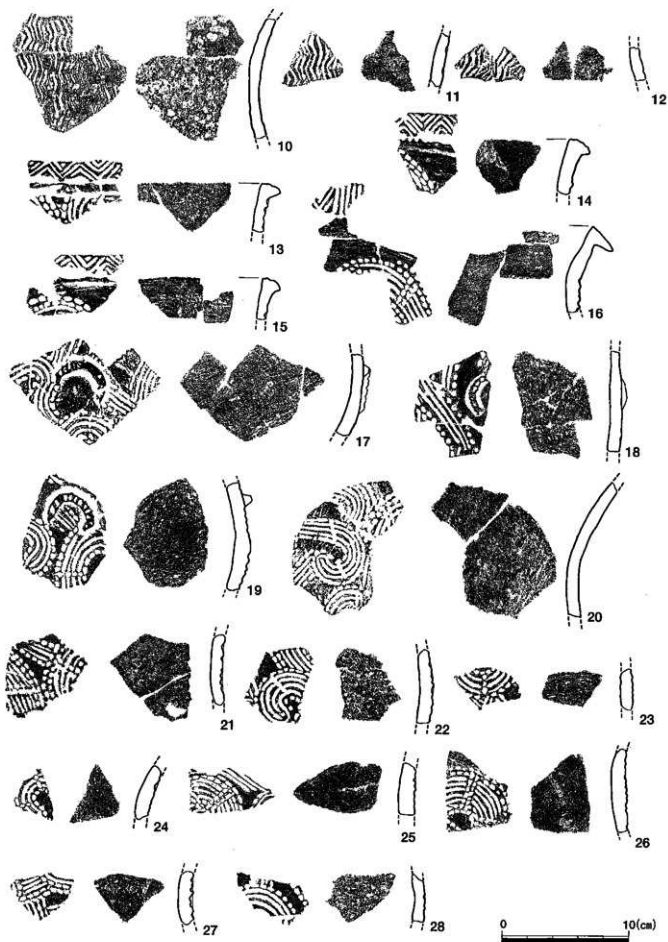
E類 (200~206)

E類は、出土層位など不明な点は幾つかあるが注目すべき特徴を有する、と判断した遺物を一括して挙げている。

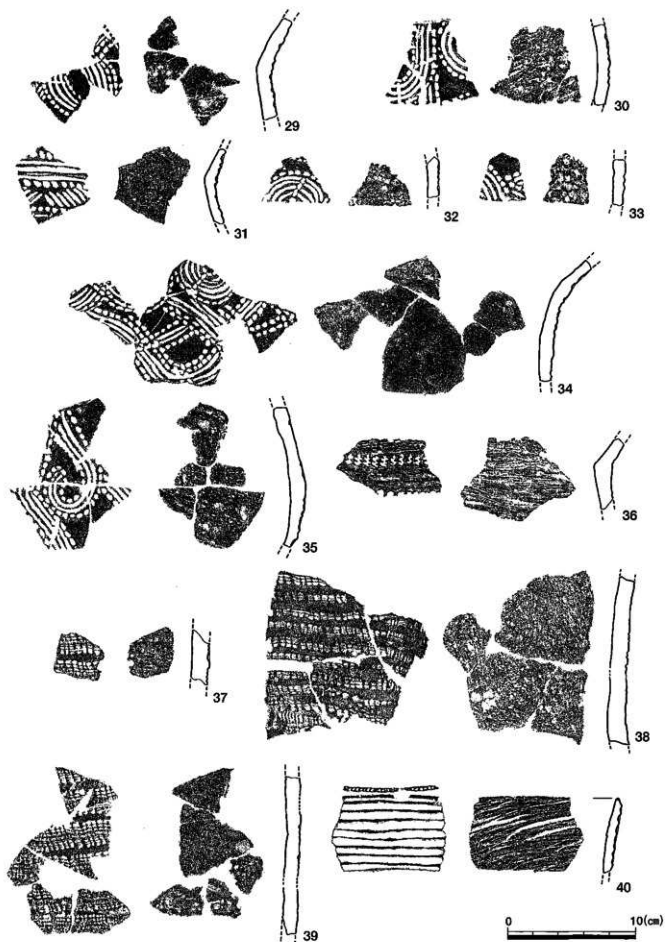


第11図 包含層出土縄文土器実測図(1)(1/3)

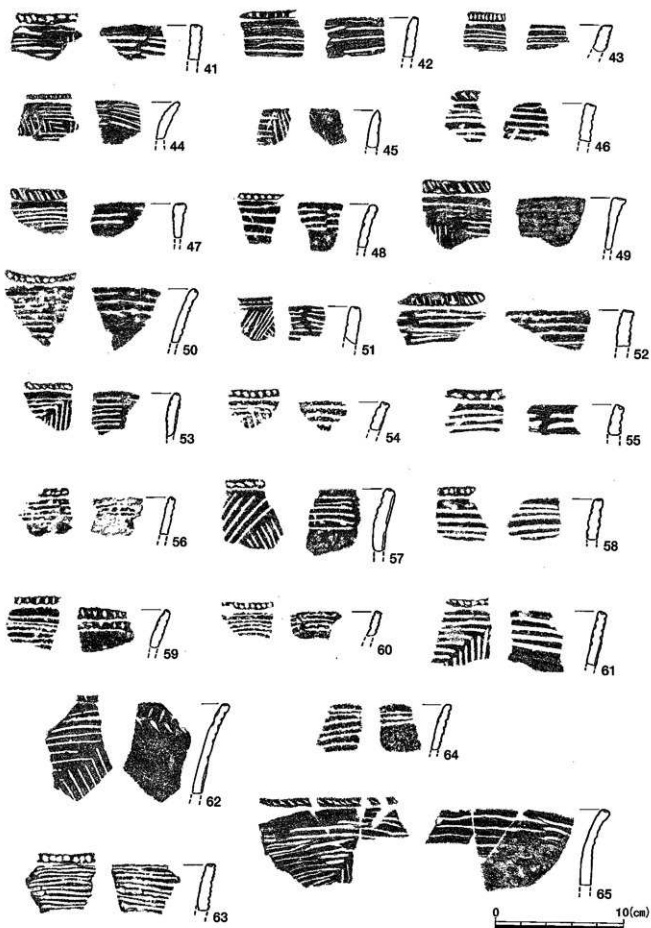




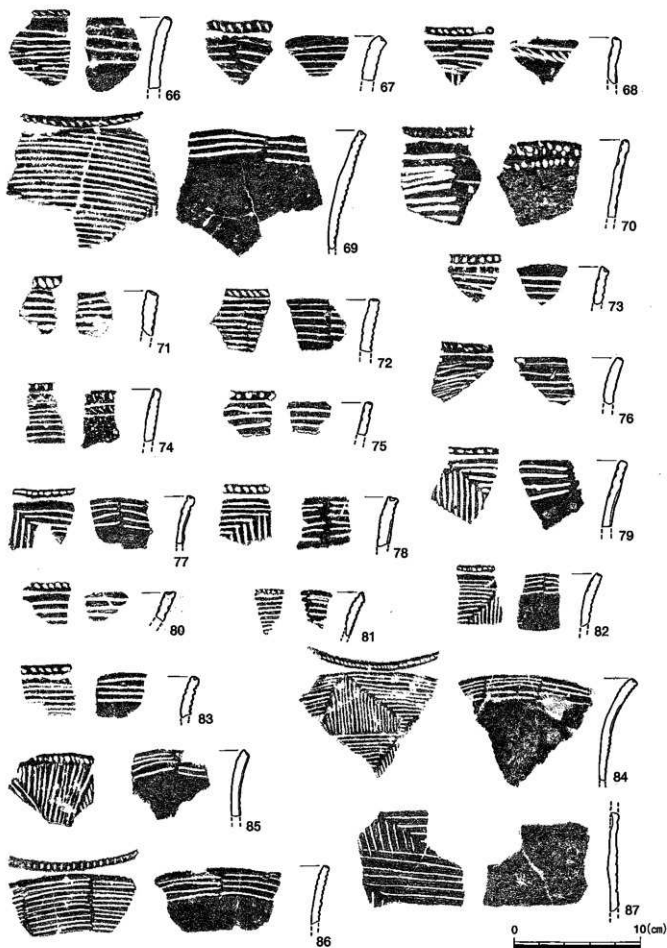
第12图 包含层出土绳文土器实测图(2)(1/3)



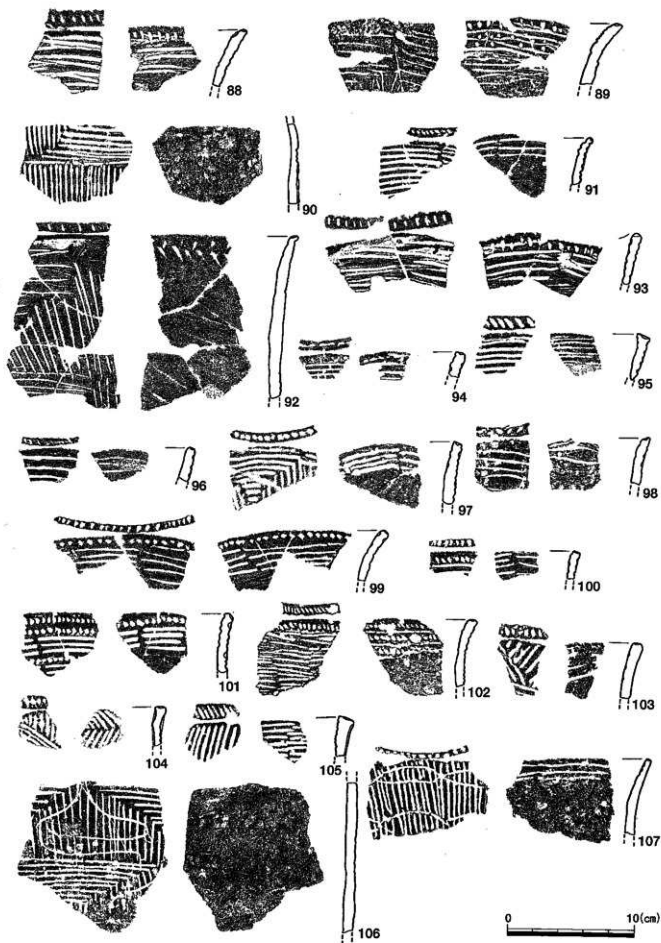
第13图 包含層出土繩文土器実測图 (3) (1/3)



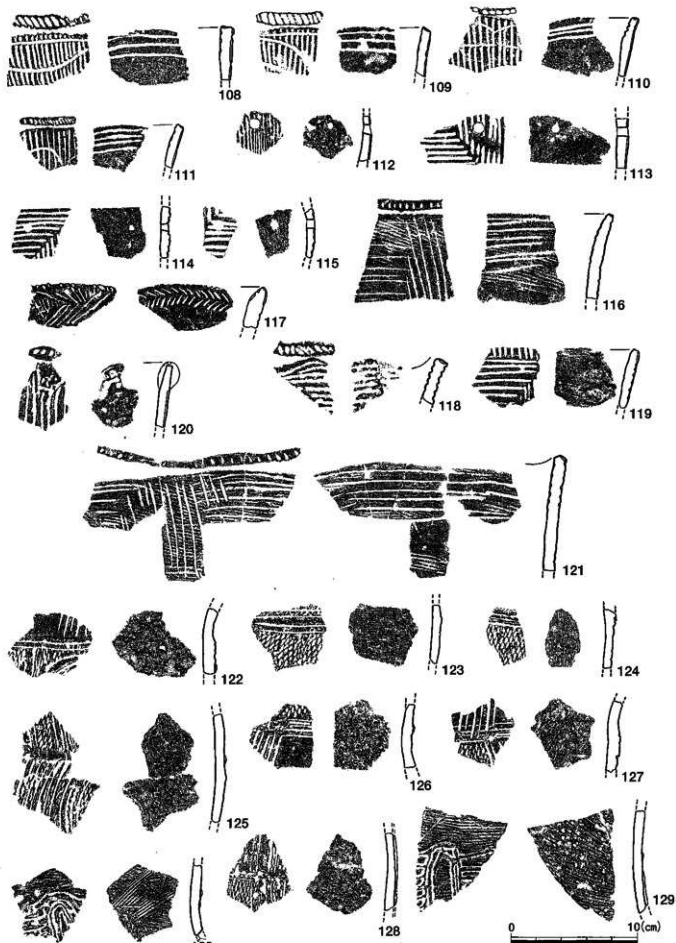
第14图 包含层出土绳文土器实测图(4)(1/3)



第15图 包含层出土縄文土器实例图(5)(1/3)



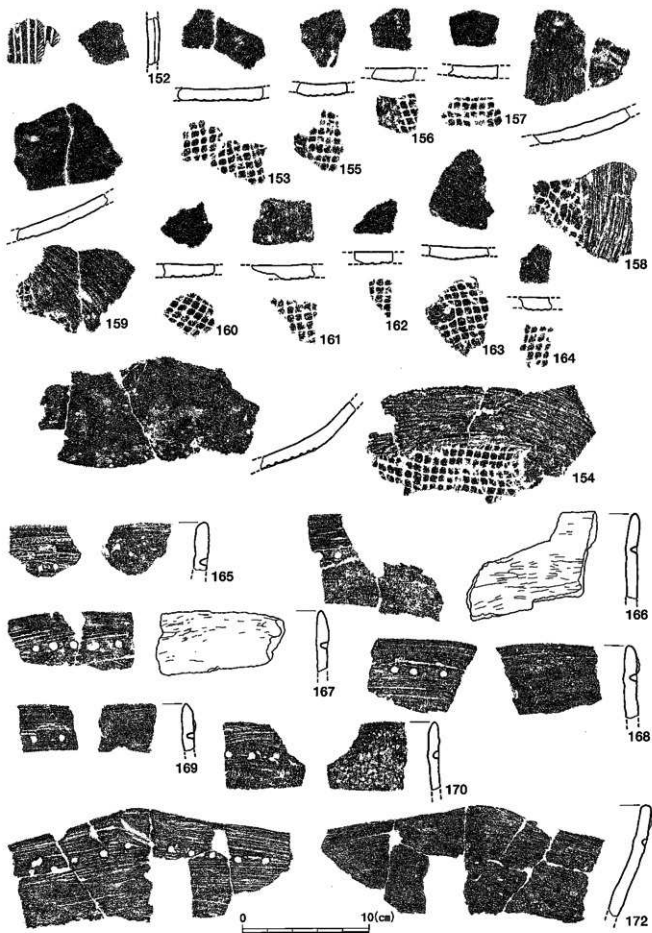
第16图 包含层出土绳文土器实测图(6)(1/3)



第17图 包含層出土縄文土器実測图(7)(1/3)

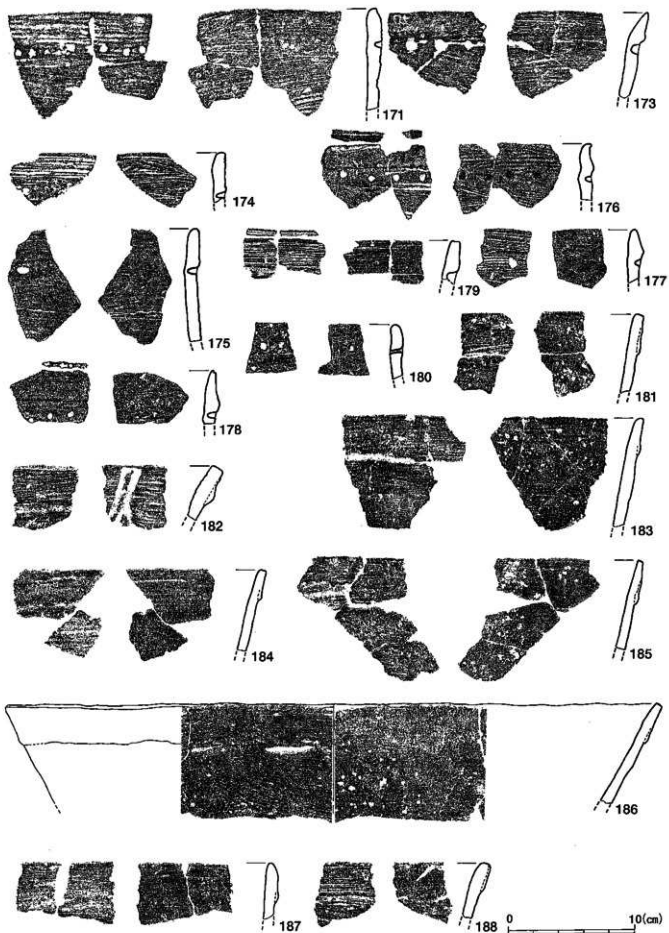


第18圖 包含層出土織文土器実測圖(8)(1/3)

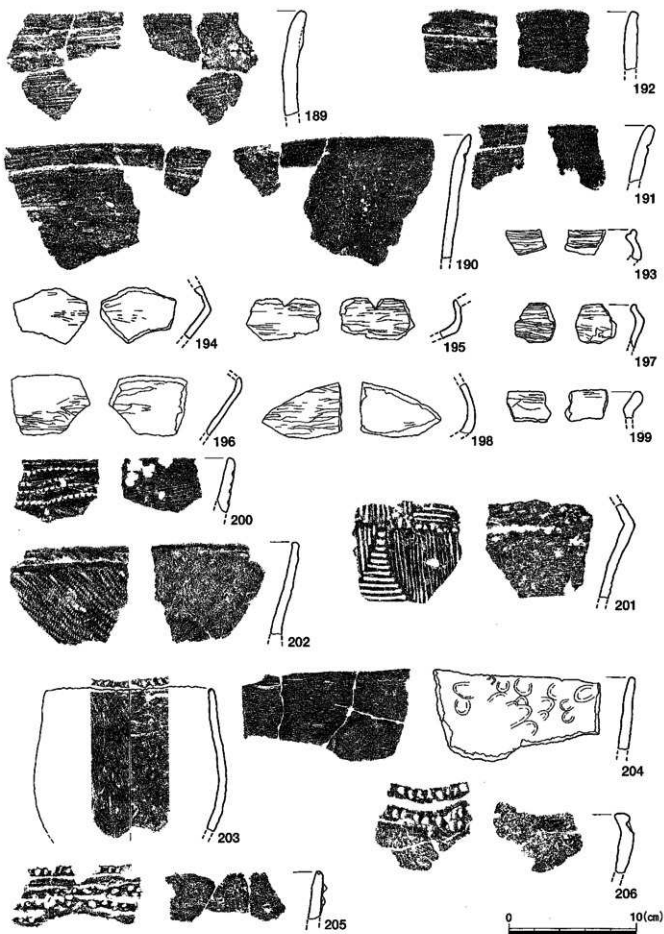


第19圖 包含層出土織文土器実測圖(9)(1/3)





第20圖 包含層出土縄文土器実測圖 (10) (1/3)



第21图 包含層出土縄文土器実測図(11)(1/3)

第6表 包舎層出土縄文土器観察表(1)

NO	遺物番号	出土 場所	分類	部位	文様及び調整		色 調		胎 土				備 考	
					外面	内面	外面	内面	石灰	炭石	キンランモ	カロウソモ		砂 粒
1	38	④ A(1)	口縁	貝殻糸文	ナテ	10YR5/3 に、い-黄褐色	10YR7/2 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	円筒
2	39	④ A(1)	口縁	貝殻糸文	ナテ	10YR5/3 に、い-黄褐色	10YR6/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	円筒
3	40	④ A(1)	口縁	貝殻糸文	ナテ	10YR5/3 に、い-黄褐色	10YR6/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	円筒
4	44	④ A(2)	胴部	横門押線文	ナテ	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	
5	45	④ A(2)	胴部	横門押線文	ナテ	10YR5/4 に、い-黄褐色	10YR6/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	
6	46	④ A(2)	胴部	横門押線文	ナテ	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	
7	47	④ A(2)	胴部	横門押線文	ナテ	10YR6/4 に、い-黄褐色	10YR6/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	
8	48	④ A(2)	胴部	横門押線文	ナテ	7.5YR4/3 褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	
9	339	④ A(2)	胴部	山形押線文	ナテ	10YR5/3 に、い-黄褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	手向山式土器
10	540	④ A(2)	胴部	山形押線文	ナテ	10YR5/3 に、い-黄褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	手向山式土器(?)
11	42	④ A(2)	胴部	山形押線文	ナテ	10YR6/4 に、い-黄褐色	2.5Y5/2 暗赤褐色	○	○	○	○	○	○	手向山式土器(?)
12	51	④ A(2)	胴部	山形押線文	ナテ	10YR6/4 に、い-黄褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	手向山式土器(?)
13	20	④ A(2)	口縁	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR4/3 褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器 口唇部に刺突文・波状沈線文
14	30	④ A(2)	口縁	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR4/3 褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器 口唇部に刺突文・波状沈線文
15	35	④ A(3)	口縁	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR4/2 褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器 口唇部に刺突文・波状沈線文
16	36	④ A(3)	口縁	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	10YR6/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器 口唇部に刺突文・波状沈線文
17	14	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
18	28	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR5/3 褐色	7.5YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
19	31	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	10YR4/3 に、い-黄褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
20	11	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
21	17	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR5/2 暗褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
22	18	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	10YR5/3 に、い-黄褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
23	19	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	10YR5/3 に、い-黄褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
24	21	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR5/3 に、い-黄褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
25	22	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	10YR4/2 黄褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
26	23	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
27	24	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR4/3 褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
28	25	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	10YR4/2 黄褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
29	26	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR4/3 褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
30	27	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR5/3 に、い-黄褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
31	29	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR4/3 褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
32	32	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	10YR5/4 に、い-黄褐色	10YR5/3 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
33	33	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
34	34	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR4/3 褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
35	37	④ A(3)	胴部	沈線文 刺突点文	ナテ	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	平盤式土器
36	53	④ A(4)	胴部	貝殻線縁による刺突文	ナテ	7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/3 褐色	○	○	○	○	○	○	瓶ノ仲式土器(貝殻点文)
37	43	④ A(4)	胴部	貝殻線縁による刺突文	ナテ	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	10YR6/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	
38	49	④ A(4)	胴部	貝殻線縁による刺突文	ナテ	10YR6/4 に、い-黄褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	
39	52	④ A(4)	胴部	貝殻線縁による刺突文	ナテ	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	10YR6/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	
40	256	④ B(1)	口縁	ミリスル状の貼付帯	ナテ	7.5YR4/1 暗褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	甕式土器 口唇部に波状線口
41	56	④ B(2)	口縁	沈線	ナテ	10YR5/3 に、い-黄褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	口唇部に波状刺突文
42	57	④ B(2)	口縁	沈線	ナテ	10YR5/3 に、い-黄褐色	7.5YR5/4 に、い-黄褐色	○	○	○	○	○	○	甕式土器 口唇部に波状刺突文

\*出土層位については、表3内(P6)の層位番号を参照

第7表 包含層出土縄文土器観察表(2)

300	発掘層位	出土層位	分類	部位	文様及び調色		色		調		土				備考	
					外面	内面	外面	内面	石灰	長石	ネンケンモ	タロウモ	砂	粒		
43	60	②	B(2)	口縁	沈線		75YR3/1 黒	75YR2/2 灰黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
44	62	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 75YR4/3 黒	75YR4/3 黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
45	63	②	B(3)	口縁	沈線		ナデ 75YR5/3 に灰・黄黒	75YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
46	68	②	H(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 10YR5/3 に灰・黄黒	10YR5/4 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
47	80	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 10YR5/4 に灰・黄黒	10YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
48	70	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/4 に灰・黄黒	75YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
49	73	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 10YR4/2 灰黄黒	10YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
90	74	②	U(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/4 に灰・黄黒	75YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
51	77	②	H(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/3 に灰・黄黒	75YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
52	78	②	B(3)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/2 灰黒	10YR4/2 灰黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
53	79	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 10YR4/2 灰黄黒	75YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
54	103	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/4 に灰・黄黒	75YR5/4 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
55	109	②	H(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/2 灰黒	10YR5/2 灰黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
56	105	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/3 黒	75YR4/3 黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
57	121	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 10YR5/3 に灰・黄黒	10YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
58	122	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/4 に灰・黄黒	75YR5/4 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
59	123	②	H(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/4 に灰・黄黒	75YR5/4 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
60	136	②	H(3)	口縁	沈線		ナデ 沈線 5YR4/1 に灰・赤黒	75YR5/4 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
61	127	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 25Y4/1 黄黒	10YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
62	129	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/2 灰黒	75YR4/3 灰黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
63	130	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/3 に灰・黄黒	75YR5/4 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
64	134	②	H(3)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/4 に灰・黄黒	10YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器
65	95	②	H(3)	口縁	沈線		ナデ 沈線 5YR5/4 に灰・赤黒	5YR5/4 に灰・赤黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
66	95	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 5YR4/3 に灰・赤黒	5YR5/4 に灰・赤黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
67	72	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/4 に灰・黄黒	25Y4/1 黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
68	81	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/3 黒	75YR4/2 灰黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
69	86	②	H(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/4 に灰・黄黒	75YR5/4 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
70	91	②	B(3)	口縁	沈線		ナデ 透線刻目・ 沈線 10YR4/2 灰黄黒	75YR5/4 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
71	108	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 5YR5/3 男赤黒	75YR5/4 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
72	110	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/3 黒	75YR4/2 灰黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
73	111	②	H(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/3 黒	75YR4/3 黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
74	112	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/3 黒	75YR4/3 黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
75	115	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/4 に灰・黄黒	75YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
76	118	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR5/4 に灰・赤黒	75YR5/3 に灰・赤黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
77	130	②	H(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 5YR5/4 に灰・赤黒	75YR4/3 黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目
78	135	②	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/3 黒	75YR5/3 に灰・黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
79	58	③	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 10YR4/3 に灰・黄黒	25Y2/2 黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
80	56	③	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 10YR4/2 灰黄黒	75YR4/2 灰黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
81	61	③	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/3 黒	10YR4/2 灰黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
82	75	③	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR4/2 灰黒	75YR4/2 灰黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
83	80	③	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR3/1 黒	10YR4/2 灰黄黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有
84	89	③	B(2)	口縁	沈線		ナデ 沈線 75YR3/1 黒	75YR3/1 黒							○	管筒式土器 口唇部に透線刻目・縦線有

※出土層位については、第3頁 (P6) の層位番号を参照



第9表 包含層出土縄文土器観察表(4)

NO	遺跡番号	出土層位	分層	部位	文様及び調査		色		調査		土		備考	
					外面	内面	外面	内面	石灰	長石	キンクワンモ	クロワンモ		砂
127	170	②	C(1)	胴部	縄文・波線 貼付突起	ナデ	75YR7/3 灰褐	10YR5/3 に灰い黄褐	〇	〇	〇	〇	4mm以下	溝線式系
128	172	②	C(1)	胴部	縄文・波線 貼付突起	ナデ	10YR5/3 に灰い黄褐	10YR5/3 に灰い黄褐	〇	〇	〇	〇	3mm以下	溝線式系
129	174	②	C(2)	胴部	具線条痕 貼付突起	ナデ	75YR4/3 褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	3mm以下	
130	175	②	C(2)	胴部	具線条痕 貼付突起	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
131	257	②	C(2)	胴部	具線条痕 貼付突起	ナデ	75YR4/3 褐	75YR5/3 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
132	258	②	C(2)	胴部	具線条痕 貼付突起	ナデ	75YR4/3 褐	75YR5/3 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	1mm以下	
133	259	②	C(2)	胴部	具線条痕 貼付突起	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	1mm以下	
134	260	②	C(2)	口縁	具線条痕 貼付突起	ナデ	5YR5/4 に灰い赤褐	5YR4/4 に灰い赤褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
135	266	②	C(2)	胴部	ナデ 貼付突起	ナデ	75YR4/2 灰褐	5YR4/3 に灰い赤褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
136	264	②	C(3)	口縁	ナデ 貼付突起	ナデ	75YR4/3 褐	10YR4/2 灰黄褐					2mm以下	口唇部に溝線目
137	275	②	C(3)	口縁	ナデ 貼付突起	ナデ	25YR3/1 黒	10YR2/2 黒褐	〇	〇			2mm以下	焼成不良 割線多い
138	276	②	C(3)	口縁	ナデ 貼付突起	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR2/2 黒褐	〇	〇	〇	〇	10mm以下	焼成不良 割線多い
139	277	②	C(3)	口縁	ナデ 貼付突起	ナデ	10YR4/3 に灰い黄褐	10YR5/2 黒褐	〇	〇	〇	〇	3mm以下	焼成不良
140	261	②	C(3)	胴部	ナデ 貼付突起	ナデ	75YR3/3 褐	10YR4/2 灰黄褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
141	265	②	C(3)	胴部	ナデ 貼付突起	ナデ	10YR2/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
142	268	②	C(3)	胴部	ナデ 貼付突起	ナデ	75YR4/2 灰褐	10YR4/2 灰黄褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
143	271	②	C(3)	胴部	ナデ 貼付突起	ナデ	75YR4/3 褐	10YR5/3 に灰い赤褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
144	262	②	C(3)	胴部	ナデ 貼付突起	ナデ	10YR5/3 に灰い黄褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	5mm以下	
145	267	②	C(3)	胴部	ナデ 貼付突起	ナデ	75YR1/3 褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	3mm以下	
146	270	②	C(3)	胴部	ナデ 貼付突起	ナデ	75YR4/3 褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	6mm以下	
147	274	②	C(3)	胴部	ナデ 貼付突起	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	25YR2/2 暗灰黄	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
148	303	②	C(4)	口縁	具線条痕 具線條引込	ナデ	75YR4/4 褐	75YR4/3 褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	口唇部に具線條の2より引込
149	309	②	C(4)	胴部	具線条痕 具線條引込	ナデ	75YR4/3 褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
150	272	②	C(4)	胴部	具線条痕 具線條引込	ナデ	10YR4/3 に灰い黄褐	75YR5/3 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	3mm以下	
151	273	②	C(4)	胴部	具線条痕 具線條引込	ナデ	10YR3/2 黒褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
152	278	②	C(4)	胴部	具線条痕 具線條引込	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
153	227	②	D(1)	底部	網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
154	228	②	D(1)	底部	具線条痕 網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
155	229	②	D(1)	底部	具線条痕 網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	3mm以下	
156	230	②	D(1)	底部	具線条痕 網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	3mm以下	
157	231	②	D(1)	底部	網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
158	232	②	D(1)	底部	具線条痕 網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
159	233	②	D(1)	底部	具線条痕 網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
160	234	②	D(1)	底部	網目正灰	ナデ	10YR5/4 に灰い黄褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
161	235	②	D(1)	底部	網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
162	236	②	D(1)	底部	網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
163	237	②	D(1)	底部	網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
164	238	②	D(1)	底部	網目正灰	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	
165	178	②	D(2)	口縁	具線条痕 具線條引込	ナデ	75YR3/1 黒	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	3mm以下	口唇部が具線条痕のみナデ・外面にスス 内面に、外縁部文の跡のわずかな点
166	180	②	D(2)	口縁	具線条痕 具線條引込	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	10YR5/3 に灰い黄褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	口唇部がナデ・外面にスス 内面に、外縁部文の跡のわずかな点
167	182	②	D(2)	口縁	具線条痕 具線條引込	ナデ	75YR4/2 灰黄褐	75YR5/3 に灰い黄褐	〇	〇	〇	〇	3mm以下	口唇部がナデ・外面にスス 内面に、外縁部文の跡のわずかな点
168	186	②	D(3)	口縁	具線条痕 具線條引込	ナデ	75YR5/4 に灰い褐	75YR5/4 に灰い褐	〇	〇	〇	〇	2mm以下	口唇部がナデ・外面にスス 内面に、外縁部文の跡のわずかな点

※口上層位については、第3頁(P6)の層位番号を参照

第10表 包含層出土縄文土器観察表(5)

No	器物 番号	出土 層位	分類	器形	色 別				胎 土			備 考
					外 面	内 面	外 面	内 面	石灰	灰石	ケンカクモ	
169	167	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	ナゲ	10YR5/3 に灰黄	7.5YR6/4 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
170	168	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	ナゲ	10YR5/2 に灰黄	10YR5/3 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
171	169	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	10YR4/2 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
172	170	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	10YR4/2 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
173	171	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	ナゲ	10YR5/3 に灰黄	7.5YR6/4 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
174	172	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	10YR5/1 に灰黄	2.5Y4/1 黄灰	○	○	○	2mm以下	口縁部が目録表載のあとナゲ・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
175	173	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	10YR5/3 に灰黄	2.5Y4/1 黄灰	○	○	○	2mm以下	口縁部が目録表載のあとナゲ・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
176	174	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	10YR4/2 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部が目録表載のあとナゲ・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
177	175	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	7.5YR4/3 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部が目録表載のあとナゲ・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
178	176	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	ナゲ	10YR5/3 に灰黄	10YR6/3 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部が目録表載・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
179	177	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	2.5Y4/1 黄灰	7.5YR4/1 黄灰	○	○	○	2mm以下	口縁部が目録表載のあとナゲ・外縁にス 内面に、外面文の跡のわずかな凸
180	178	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	ナゲ	10YR5/3 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ
181	179	⑤	D(2)	口縁部 外縁部	ナゲ	7.5YR5/4 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ
182	180	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	ナゲ	7.5YR5/4 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	3mm以下	口縁部が目録表載のあとナゲ・外縁にス
183	144	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	ナゲ	7.5YR5/4 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	3mm以下	口縁部が目録表載のあとナゲ・外縁にス
184	145	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	10YR5/4 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	4mm以下	口縁部がナゲ
185	146	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	7.5YR5/4 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	3mm以下	口縁部がナゲ
186	147	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	ナゲ	7.5YR5/4 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	3mm以下	確定L12 52cm
187	181	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	ナゲ	10YR4/2 に灰黄	10YR5/3 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ 外縁にス
188	196	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	10YR4/2 に灰黄	2.5Y4/1 黄灰	○	○	○	2mm以下	口縁部が目録表載のあとナゲ・外縁にス
189	302	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	目録表載・ナゲ	2.5Y4/2 黄灰	10YR5/2 黄灰	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ
190	18	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	ナゲ	7.5YR5/4 に灰黄	10YR4/2 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ
191	248	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	ナゲ	10YR4/2 に灰黄	7.5YR5/4 に灰黄	○	○	○	1mm以下	口縁部がナゲ
192	249	⑤	D(3)	口縁部 外縁部	ナゲ	2.5Y4/1 黄灰	10YR5/4 に灰黄	○	○	○	1mm以下	口縁部がナゲ
193	157	⑤	D(4)	胴部	ミガキ	10YR2/1 黒	10YR2/1 黒	○	○	○	1mm以下	口縁部がナゲ
194	159	⑤	D(4)	胴部	ミガキ	5YR6/3 に灰黄	7.5YR4/2 灰黄	○	○	○	1mm以下	口縁部がナゲ
195	100	⑤	D(4)	胴部	ミガキ	10YR5/3 に灰黄	10YR4/3 に灰黄	○	○	○	1mm以下	口縁部がナゲ
196	161	⑤	D(4)	胴部	ミガキ	10YR4/1 黒灰	10YR5/2 灰黄	○	○	○	1mm以下	口縁部がナゲ
197	162	⑤	D(4)	胴部	ミガキ	7.5YR5/3 に灰黄	10YR4/2 に灰黄	○	○	○	1mm以下	口縁部がナゲ
198	163	⑤	D(4)	胴部	ミガキ	10YR5/3 に灰黄	10YR5/2 に灰黄	○	○	○	1mm以下	口縁部がナゲ
199	245	⑤	D(4)	胴部	ミガキ	10YR5/2 に灰黄	10YR5/3 に灰黄	○	○	○	1mm以下	胴部有り
200	41	-	E	口縁部 外縁部	ナゲ	2.5Y5/2 黄灰	10YR5/3 に灰黄	○	○	○	1mm以下	胴部有り
201	9	-	E	胴部	沈殿	7.5YR4/3 黄	10YR5/3 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ
202	8	-	E	胴部	沈殿	10YR4/3 灰黄	10YR5/3 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部がナゲ
203	153	-	E	胴部	ナゲ	7.5YR4/1 黄灰	10YR4/2 に灰黄	○	○	○	5mm以下	口縁部がナゲ
204	240	-	E	胴部	ナゲ	7.5YR4/3 黄	7.5YR4/2 灰黄	○	○	○	4mm以下	外縁にス
205	244	-	E	胴部	ナゲ	5YR4/3 に灰黄	5YR4/3 に灰黄	○	○	○	2mm以下	口縁部に沈殿層目
206	251	-	E	胴部	押し込み	2.5Y5/2 黄灰	2.5Y5/3 黄	○	○	○	2mm以下	口縁部に沈殿層目

\*出土層位については、第3回 (P6) の層位番号を参照

## (2) 弥生時代以降の土器

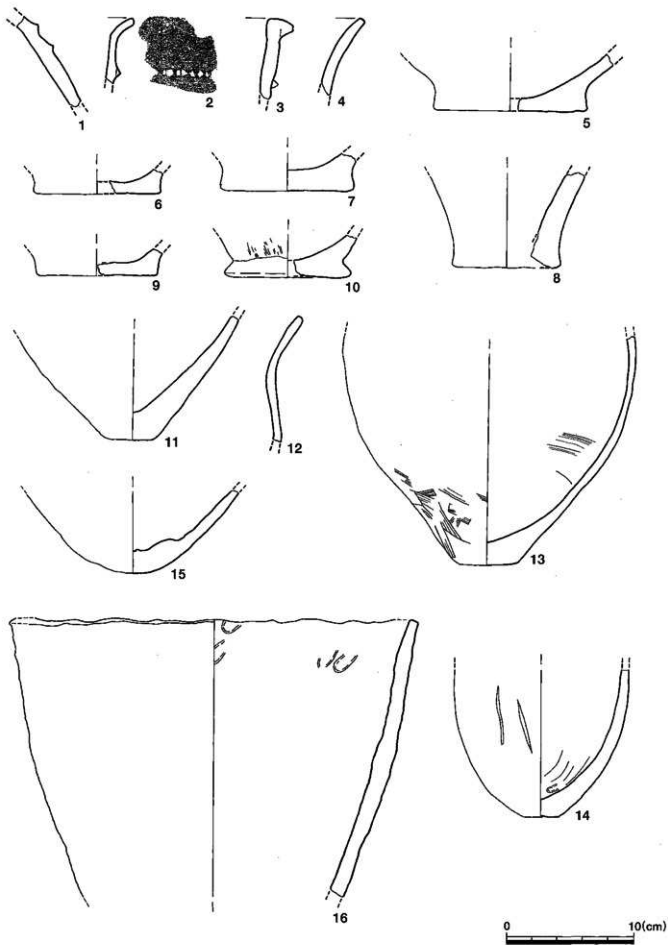
弥生時代以降の土器については3層から出土しているが、出土量はごく少量である。また小破片が多く、時期・器形など詳細を掴みにくい状況であるが、その大半は弥生時代中期末から後期初頭にかけてのものと思われる。

第11表 包含層出土弥生時代以降遺物観察表

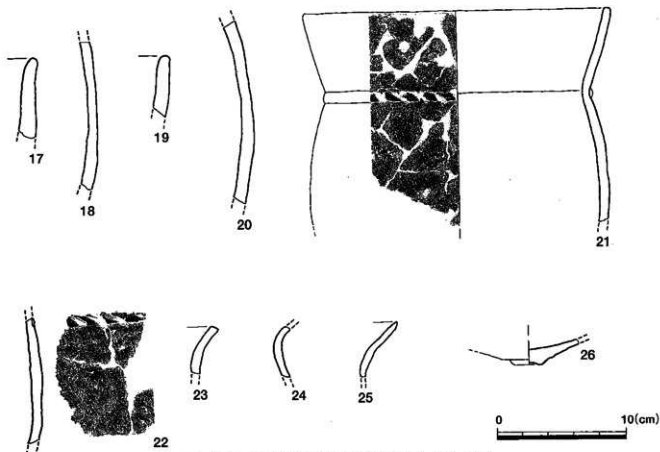
NO	出土層 番号	種類	産出部位	径長 (cm)		厚		色		土	備 考
				口径	底径	外厚	内厚	外面	内面		
1	205	④	弥生 要割部			ナテ	ナテ	10YR5/3 に灰・黄緑	7.5YR5/4 に灰・黄	石灰・黒炭粉及び3mm以下の 褐色・褐色粒を含む	
2	206	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	10YR4/2 に灰・黄緑	10YR6/3 に灰・黄	黒炭粉及び3mm以下の 褐色・白色・黄色・褐色粒を含む	ヌス付着
3	209	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	10YR5/3 に灰・黄緑	7.5YR5/4 に灰・黄	石灰及び2mm以下の褐色・灰色・ 褐色・褐色粒を含む	
4	204	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	7.5YR5/3 に灰・黄	10Y10/3 に灰・黄	石灰・黒炭粉及び3mm以下の 灰色・黄色・褐色・褐色粒を含む	
5	319	④	弥生 底部	12.3cm		ナテ	ナテ	7.5YR5/4 に灰・黄	2.5Y7/2 に灰・黄	石灰・以石灰及び3mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色・褐色粒を含む	
6	300	④	弥生 底部	10cm		ナテ	ナテ	10YR5/4 に灰・黄	10YR5/3 に灰・黄	石灰・以石灰及び2mm以下の白色・灰色・ 褐色粒を含む	
7	301	④	弥生 底部	10.5cm		ナテ	ナテ	10YR5/2 に灰・黄	10YR6/4 に灰・黄	石灰・以石灰及び2mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色粒を含む	
8	302	④	弥生 底部	8.6cm		ハテの後 ナテ	ナテ	7.5YR5/4 に灰・黄	N2/0 褐色	石灰・以石灰及び3mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色粒を含む	
9	323	④	弥生 底部	9.6cm		ナテ	ナテ	10YR5/4 に灰・黄	10YR5/2 に灰・黄	石灰・以石灰及び3mm以下の白色・灰色・ 褐色粒を含む	
10	325	④	弥生 底部	10cm		ハテ ナテ	ナテ	7.5YR5/3 に灰・黄	10YR5/2 に灰・黄	石灰・以石灰及び2mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色粒を含む	
11	380	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	7.5YR6/4 に灰・黄	7.5YR5/4 に灰・黄	石灰・黒炭粉及び2.5mm以下の白色・ 褐色・褐色・褐色粒を含む	
12	306	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	5YR5/4 に灰・黄	7.5YR5/4 に灰・黄	石灰及び2.5mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色・褐色粒を含む	
13	304	④	弥生 要割部			ハテの後 ナテ	ナテ	7.5YR5/4 に灰・黄	7.5YR5/4 に灰・黄	黒炭粉・以石灰及び4mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色粒を含む	
14	303	④	弥生 新層一 底部	2.8cm		ナテ	ナテ	5YR5/6 褐色	5YR4/4 に灰・黄	石灰及び3mm以下の白色・灰色・褐色・ 褐色・褐色粒を含む	外面に記号(?)
15	304	④	弥生 底部			ナテ	ナテ	10YR6/4 に灰・黄	10YR5/3 に灰・黄	石灰・以石灰及び3mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色粒を含む	
16	262	④	弥生 要1層部	20cm		ナテ	ナテ	10YR6/3 に灰・黄	10YR5/2 に灰・黄	黒炭粉・灰石及び4mm以下の灰色・ 褐色・褐色粒を含む	不明遺跡より出土
17	283	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	10YR6/3 に灰・黄	10YR5/2 に灰・黄	黒炭粉・灰石及び2mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色粒を含む	不明遺跡より出土
18	285	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	10YR5/3 に灰・黄	10YR5/3 に灰・黄	黒炭粉・灰石及び2mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色・褐色粒を含む	不明遺跡より出土
19	286	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	10YR5/3 に灰・黄	10YR5/2 に灰・黄	黒炭粉及び2mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色・褐色粒を含む	不明遺跡より出土
20	287	④	弥生 要割部			ナテ	ナテ	7.5YR6/4 に灰・黄	10YR6/3 に灰・黄	黒炭粉・灰石・石灰及び3mm以下の白色・ 灰色・褐色・褐色粒を含む	不明遺跡より出土
21	314	④	弥生 要1層部	24cm		ナテ	ナテ	10YR5/2 に灰・黄	10YR6/2 に灰・黄	石灰・以石灰及び2mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色粒を含む	
22	315	④	弥生 要割部			ナテ	ナテ	10YR5/2 に灰・黄	10YR4/1 褐色	石灰・以石灰及び3mm以下の白色・灰色・ 褐色・褐色粒を含む	
23	308	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	7.5YR6/4 に灰・黄	7.5YR6/4 に灰・黄	4mm以下の灰色・褐色・褐色・褐色粒を含む	
24	307	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	10YR6/4 に灰・黄	7.5YR6/4 に灰・黄	石灰及び灰色・褐色・褐色・褐色粒を含む	
25	300	④	弥生 要1層部			ナテ	ナテ	7.5YR6/4 に灰・黄	7.5YR6/4 に灰・黄	石灰及び3mm以下の白色・灰色・褐色・ 褐色・褐色粒を含む	
26	317	④	土師 底部	2.8cm		ナテ	ナテ	5YR5/6 褐色	5YR5/6 褐色	石灰・以石灰及び灰色・褐色・褐色粒を含む	

※出土層については、第3図 (P6) の層位番号を参照





第22圖 包含層出土弥生時代以降遺物実測圖(1)(1/3)



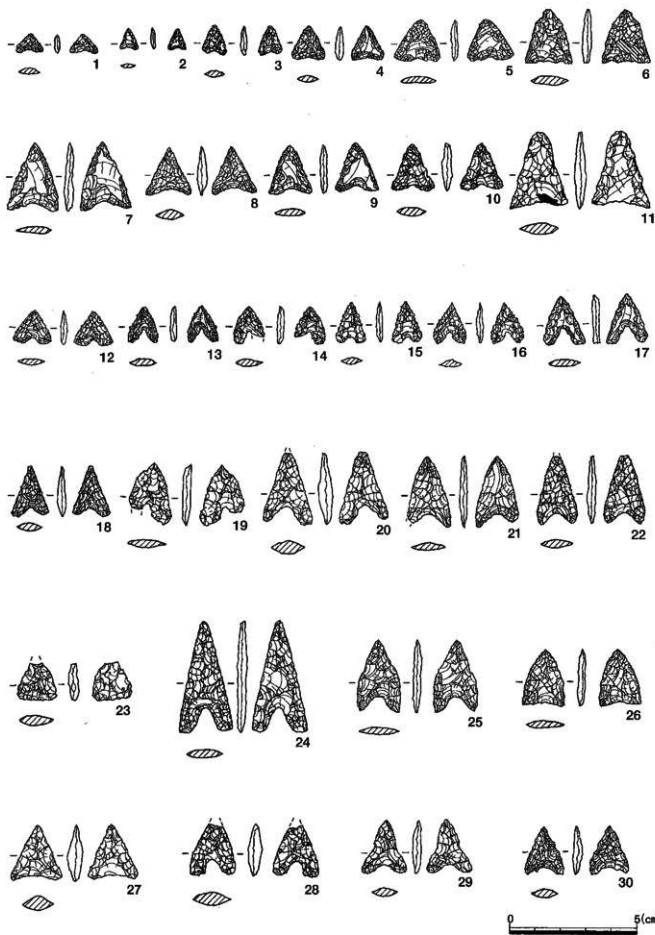
第23図 包含層出土弥生時代以降遺物実測図(2)(1/3)

### (3) 石器

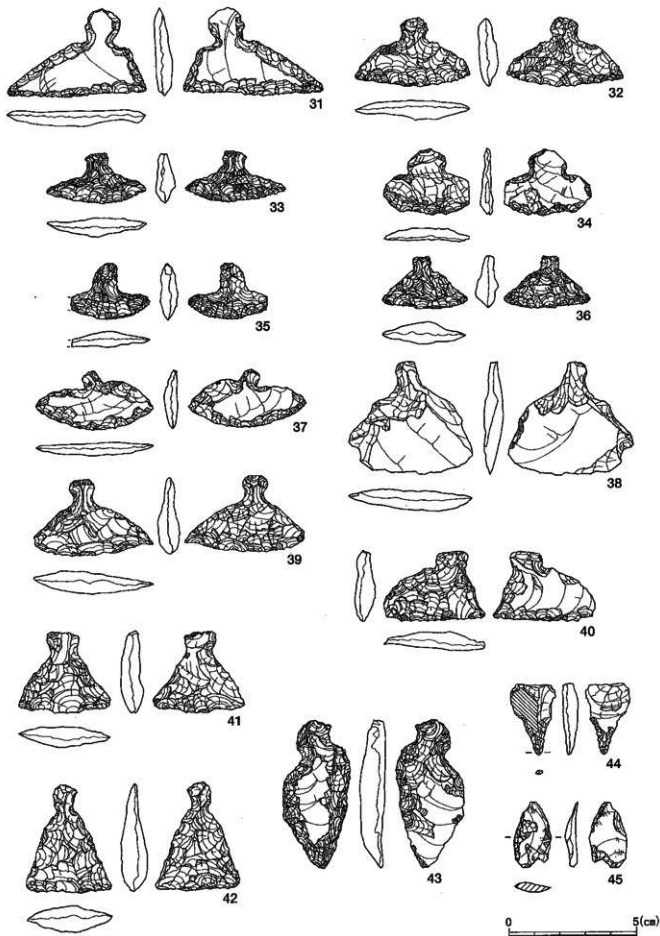
出土層位は、3層、5～6層、旧石器の遺物包含層、の大別して3層に分かれる。3層から出土した石器は、石鏃・石匙・石斧・磨石・礫器・剥片石器などで、使用されている石材は、黒曜石(姫島産、針尾産)・チャート・頁岩・砂岩が多く、なかには流紋岩・安山岩・玉髓などもみられる。石鏃についてはすべてが打製石鏃で(1～24)、平面形やえぐりの有無などには様々なバリエーションが見られ、石匙については、横匙(31など)・縦匙(43)いずれも見られるが、横匙が大多数を占めている。その他、磨石のほとんどは砂岩を石材としているが、51は尾鈴酸性砂岩を使用しており、また石斧については、49は局部磨製石斧、50は磨製石斧でいずれもホルンフェルスを使用している。48の礫器については砂岩が使用されているが、表面で確認できる滑らかな面は研磨か使用のためのものであろう。礫器や剥片石器については、掲載遺物の他に多数出土しているが、今回の報告書では紹介できていない。

5～6層から出土した石器は、石鏃(25～30)・異形石器(46・47)・礫器・剥片石器などで、使用されている石材は黒曜石(姫島産、針尾産)・チャート・頁岩・砂岩が多い。この層からの出土遺物についても、製品のみで紹介にとどまっており、剥片等については掲載できていない。

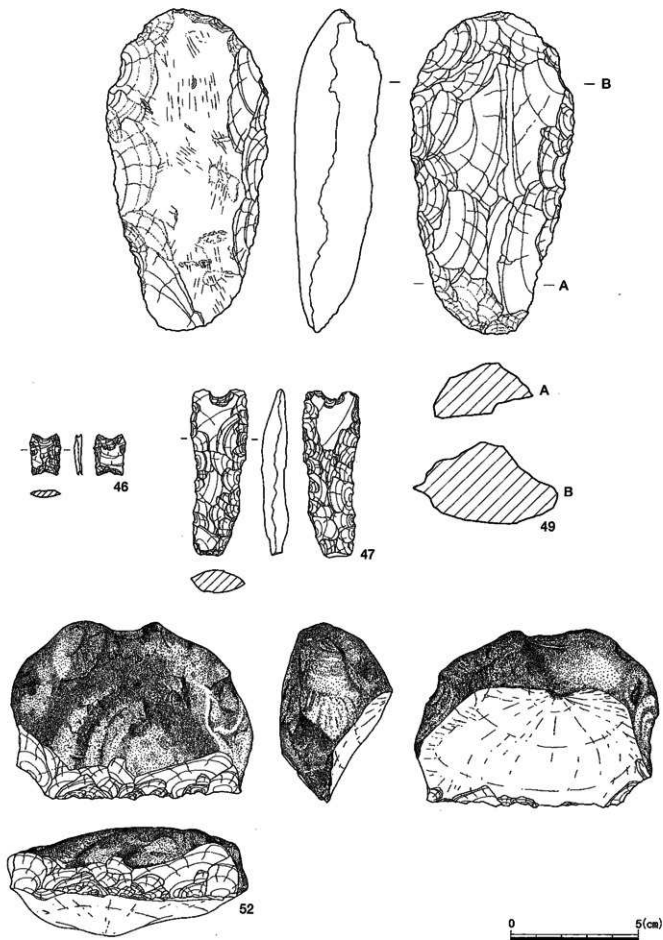
旧石器の石器については、トレンチ調査で出土したごくわずかな量であるが、52のスクレーパーは注目に値する。



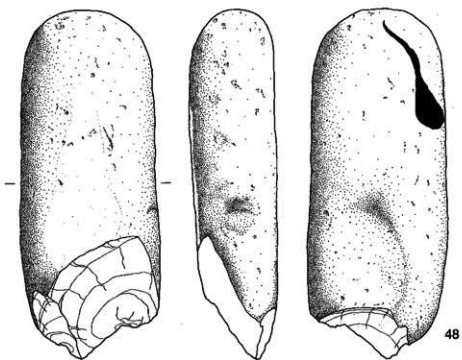
第24图 包含层出土石器实测图(1)(2/3)



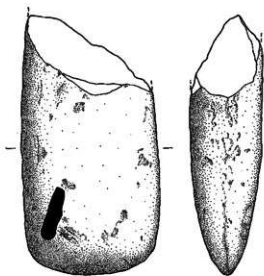
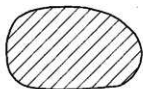
第25圖 包含層出土石器實測圖(2)(2/3)



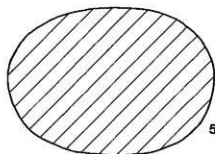
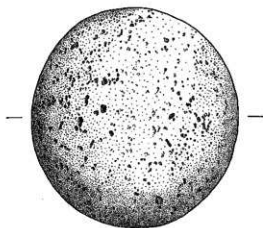
第26图 包含层出土石器实例图 (3) (2/3)



\*トーン部分は、研磨面か？



50



51



第27図 包含層出土石器実測図(4)(2/3)

第12表 包含層出土石器計測表

NO	整理番号	器種	出土層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
1	353	石鏃	⑤	チャート	0.8	1.1	0.2	0.1	
2	357	石鏃	⑤	黒曜石	0.9	0.7	0.2	0.1以下	
3	359	石鏃	⑤	黒曜石	1.2	1.0	0.3	0.1以下	
4	349	石鏃	③	チャート	1.4	1.3	0.2	0.4	
5	336	石鏃	③	チャート	1.7	1.8	0.3	0.7	
6	334	石鏃	③	チャート	2.2	1.9	0.4	1.3	
7	338	石鏃	③	チャート	2.7	2.0	0.4	1.5	
8	355	石鏃	③	チャート	1.9	1.7	0.4	0.7	
9	358	石鏃	③	頁岩	2.0	1.7	0.3	0.6	
10	367	石鏃	③	黒曜石	1.9	1.7	0.4	0.6	
11	372	石鏃	③	流紋岩	3.1	2.3	0.3	2.2	
12	348	石鏃	③	黒曜石	1.4	1.5	0.3	0.4	
13	360	石鏃	⑤	黒曜石	1.5	1.2	0.3	0.3	黒曜石の産地は長峰県針尾
14	363	石鏃	⑤	黒曜石	1.5	1.2	0.4	0.3	
15	374	石鏃	③	チャート	1.6	1.2	0.3	0.1	
16	375	石鏃	③	黒曜石	1.6	1.3	0.3	0.2	黒曜石の産地は大分県那島
17	343	石鏃	⑤	頁岩	1.9	1.3	0.2	0.4	
18	344	石鏃	④	黒曜石	2.0	1.5	0.4	0.4	
19	352	石鏃	⑤	黒曜石	2.5	1.7	0.3	1.1	臀部欠損
20	370	石鏃	③	黒曜石	2.9	1.9	0.5	1.6	先端部欠損
21	345	石鏃	③	頁岩	2.8	1.7	0.3	1.0	臀部欠損
22	346	石鏃	③	頁岩	2.7	1.6	0.3	1.1	先端部欠損
23	364	石鏃	②	安山岩	4.5	2.1	0.3	2.4	
24	341	石鏃	③	玉髄	2.9	1.8	0.3	1.2	
25	335	石鏃	⑥	黒曜石	1.5	1.5	0.4	0.8	先端部欠損
26	354	石鏃	⑥	チャート	2.3	1.7	0.3	1.1	
27	373	石鏃	⑥	頁岩	2.2	2.0	0.6	1.4	
28	331	石鏃	⑥	黒曜石	2.1	1.8	0.6	1.2	先端部欠損
29	369	石鏃	⑥	チャート	2.1	1.3	0.4	0.7	
30	371	石鏃	⑥	玉髄	1.9	1.6	0.4	0.6	
31	327	石鏃	③	頁岩	3.6	5.5	0.6	6.2	
32	329	石鏃	③	黒曜石	2.9	4.6	0.7	5.4	黒曜石の産地は大分県那島
33	330	石鏃	③	黒曜石	2.0	4.0	0.8	3.1	黒曜石の産地は長峰県針尾
34	332	石鏃	⑤	チャート	2.7	3.4	0.5	3.6	
35	333	石鏃	-	チャート	2.3	3.2	0.7	2.9	SC-107より出土
36	361	石鏃	③	玉髄	2.1	3.4	0.9	3.4	
37	342	石鏃	③	安山岩	2.4	4.7	0.5	3.8	
38	350	石鏃	③	ホルンフェルス	4.5	4.9	0.9	11.7	
39	362	石鏃	③	頁岩	3.0	4.7	0.9	7.5	
40	365	石鏃	③	頁岩	2.8	4.0	0.9	7.3	
41	347	石鏃	③	安山岩	3.3	3.7	0.8	6.6	
42	356	石鏃	-	安山岩	4.3	3.4	1.1	10.5	
43	366	石鏃	③	チャート	6.0	2.7	1.0	15.2	
44	351	石鏃	-	チャート	2.9	1.9	0.6	2.3	
45	328	石鏃(未製品)	⑥	黒曜石	2.6	1.4	0.3	1.1	
46	377	異形石器	-	チャート	1.4	1.3	2.5	0.4	
47	1	異形石器	⑥	頁岩	6.7	2.3	1.0	15.5	
48	379	磨部	①	砂岩	13.9	5.5	3.5	406.2	石核の可能性も有り
49	380	磨製石斧	③	ホルンフェルス	12.8	6.5	3.3	306.5	使用中に欠損の可能性有り
50	378	磨製石斧	③	ホルンフェルス	10.3	5.5	3.0	212.2	基部欠損。研磨による仕上げは不明瞭
51	376	磨石	①	尾崎酸性砂岩	8.8	8.2	5.9	697.3	
52	2	スクレーパー	⑥-⑧	頁岩	7.1	9.5	4.3	318.0	

\*出土層位については、第3図(P6)の層位番号を参照。尚( )の層位については、確定ではないので注意。

## 第5節 まとめ

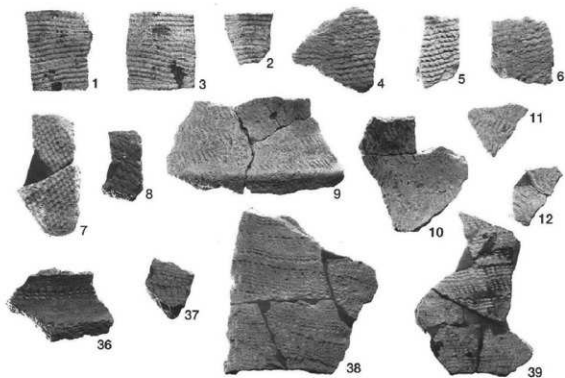
今回の調査では、①縄文時代前期から古代②縄文時代草創期から縄文時代早期、③旧石器、と3枚確認されている文化層すべてにおいて、いわば部分的な範囲での記録作業となった。

①の文化層については、現代耕作によりアカホヤ火山灰が削平されていない範囲での調査となったが、確認された遺構で注目されるのは、端部にピットを有する土坑であろう。この土坑については、近隣の滑川第1遺跡や山田第2遺跡でも確認されているが、構築されている地形はいずれもやや谷地形となり窪んだ所で、2層及び3層が厚めに堆積している場所である。用途については、棒状のものを立ててなんらかを貯蔵したのではないかと、など幾つかの推測が可能であるが、地下茎植物を採掘する際の痕跡ということも充分にありえると考えられる。また、包含層より出土した遺物については、縄文時代前期から古代までの幅広い時期の遺物が確認されているが、なかでも注目されるのは密集して出土した曾畑式土器であろう。

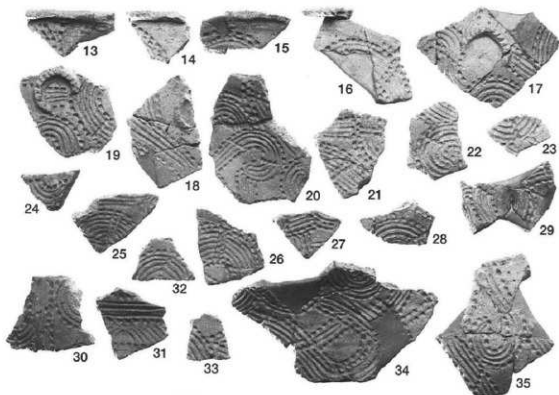
次に②の文化層では、集石遺構が2つのグループで検出されている。似かよった集石遺構が5基まとまっているグループについては、他の状況はほとんど同じであるにもかかわらず、配石については持つものと持たないものいずれも存在していることが確認されており、このことを整理していくと掘り込みの中に人頭大の扁平な礫を配置する目的が明確になるのではないかとと思われる。また大型の集石遺構の周りを小型の集石遺構が囲むグループについては、大型の2基と小型の4基が無関係なのか、それとも互いになんらかの結びつきがあるのか定かではないけれども、現時点では“なんらかの関係がある”、もう一步踏み込んでいうと“大型の集石を使用する際に、礫の補充をするために小型の集石が使用されたのではないかと”という推測が最も妥当だと思われる。また、包含層から出土した遺物については、早期中葉から後葉にかけてのものがほとんどであった。

最後に③の文化層については部分的な調査を行ったが、小林軽石層の上下でわずかではあるがスクレーパーなどの遺物が確認されている。

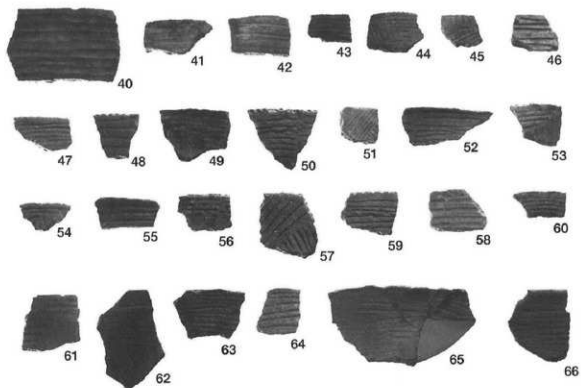




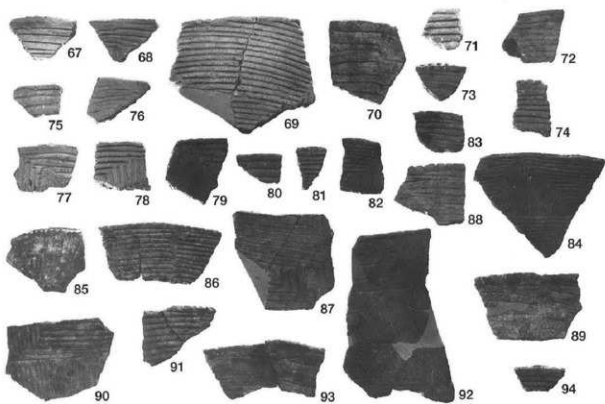
圖版26 包含層出土繩文土器 (1)



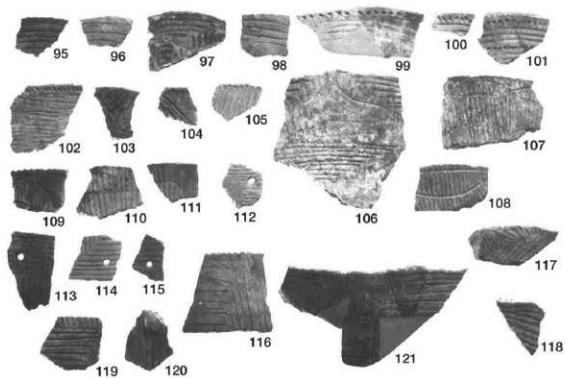
圖版27 包含層出土繩文土器 (2)



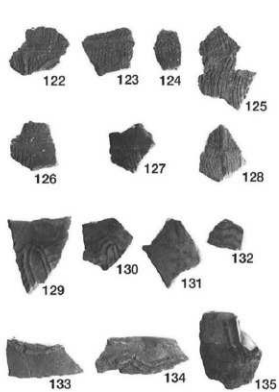
図版28 包含層出土縄文土器（3）



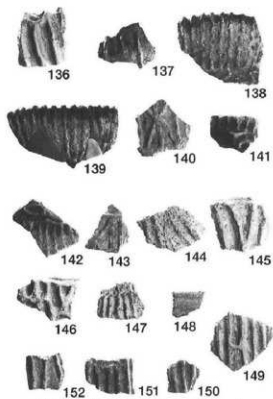
図版29 包含層出土縄文土器（4）



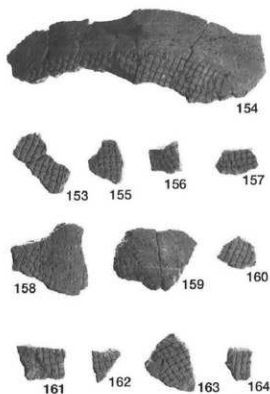
图版30 包含层出土绳文土器 (5)



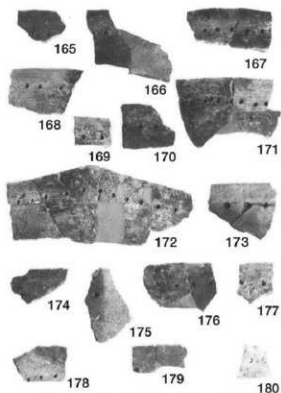
图版31 包含层出土绳文土器 (6)



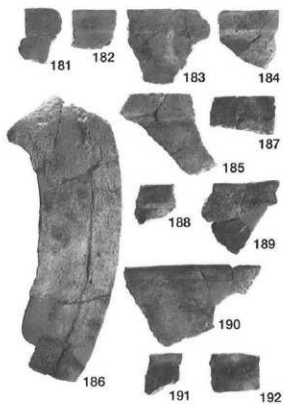
图版32 包含层出土绳文土器 (7)



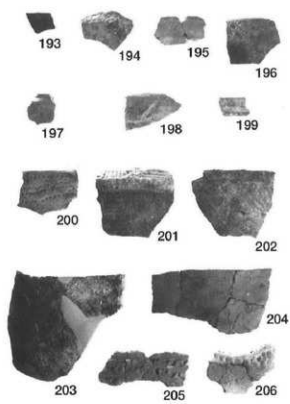
図版33 包含層出土縄文土器 (8)



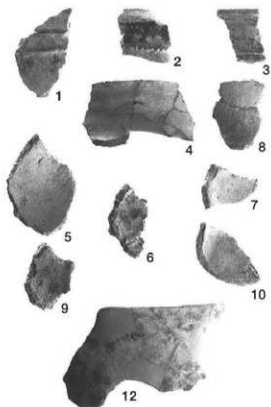
図版34 包含層出土縄文土器 (9)



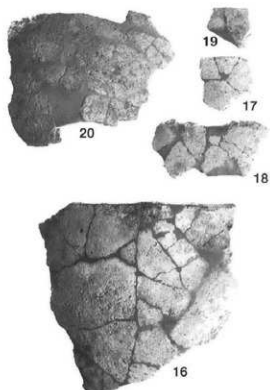
図版35 包含層出土縄文土器 (10)



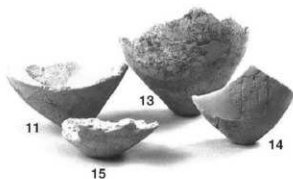
図版36 包含層出土縄文土器 (11)



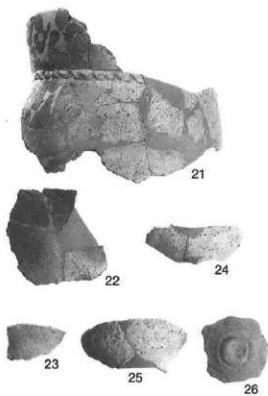
図版37 包含層出土弥生時代以降遺物 (1)



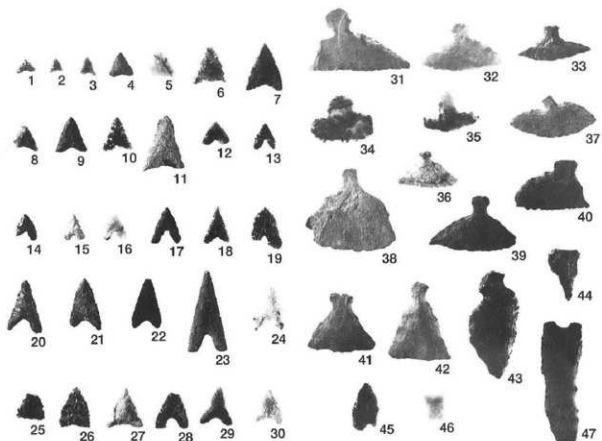
図版38 包含層出土弥生時代以降遺物 (2)



図版39 包含層出土弥生時代以降遺物 (3)

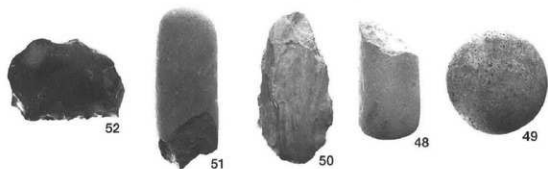


図版40 包含層出土弥生時代以降遺物 (4)



图版41 包含层出土石器 (1)

图版42 包含层出土石器 (2)



图版43 包含层出土石器 (3)

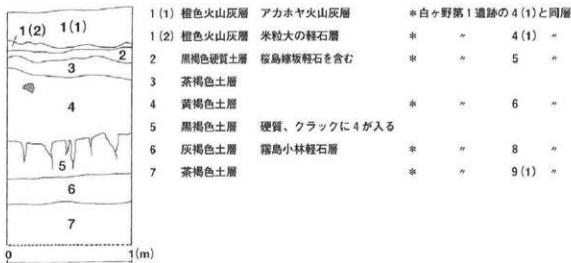
## 第4章 白ヶ野第4遺跡



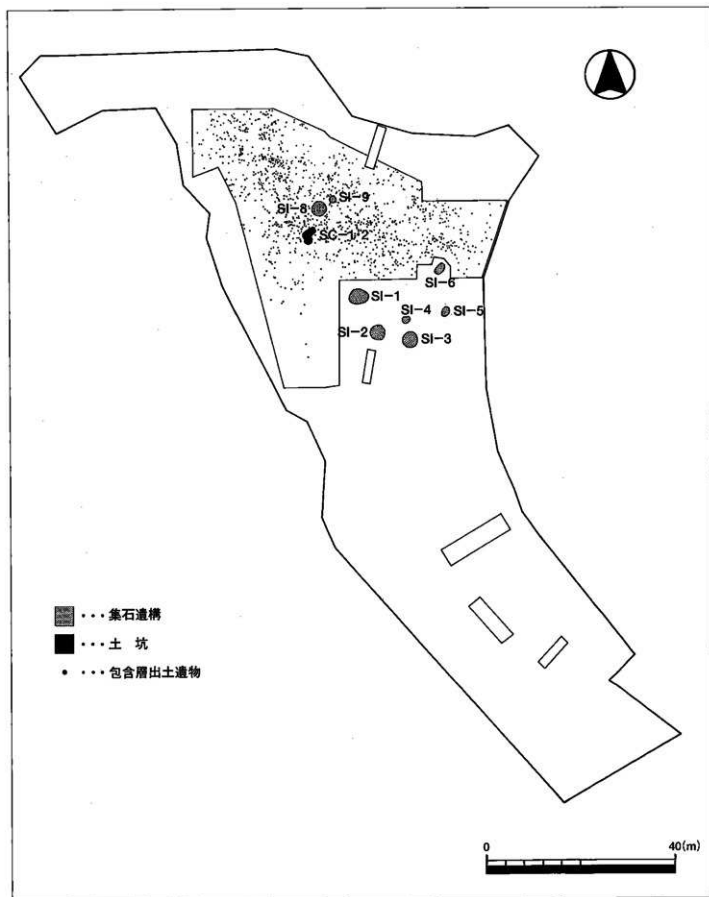
図版44 白ヶ野第4遺跡全景

### 第1節 調査過程について

白ヶ野第4遺跡は、現代の耕作による削平が著しく、縄文時代早期の文化層のみが残存する状況であった。遺構は削平を受けた部分に一部破壊された状態で残っているケースが多く、遺物は調査区北側中央のやや窪んだ範囲で集中して出土した。傾斜のきつい調査区東側については、トレンチによる確認作業を数箇所で行ったが、遺構及び遺物は確認されなかった。



第28図 白ヶ野第4遺跡基本土層図 (1/30)



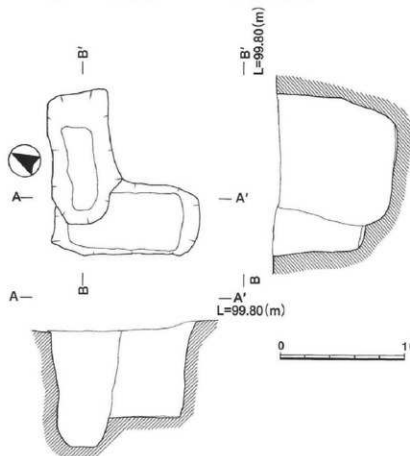
第29図 白ヶ野第4遺跡遺物及び遺構分布図 (1/400)



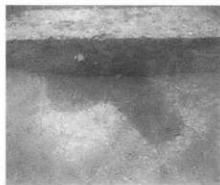
## 第2節 遺構について

### (1) 土坑

土坑は、霧島・小林軽石層上面で2基が切り合う状態で検出された。埋土はいずれの土坑も黒褐色硬質土で、互いの新旧関係は不明である。又、埋土中には貝殻状痕文土器片が数点と焼礫が数十点入り込んでいたため、構築時期については縄文時代早期が妥当と思われる。用途については不明である。



第30図 SC-1・2実測図 (1/30)



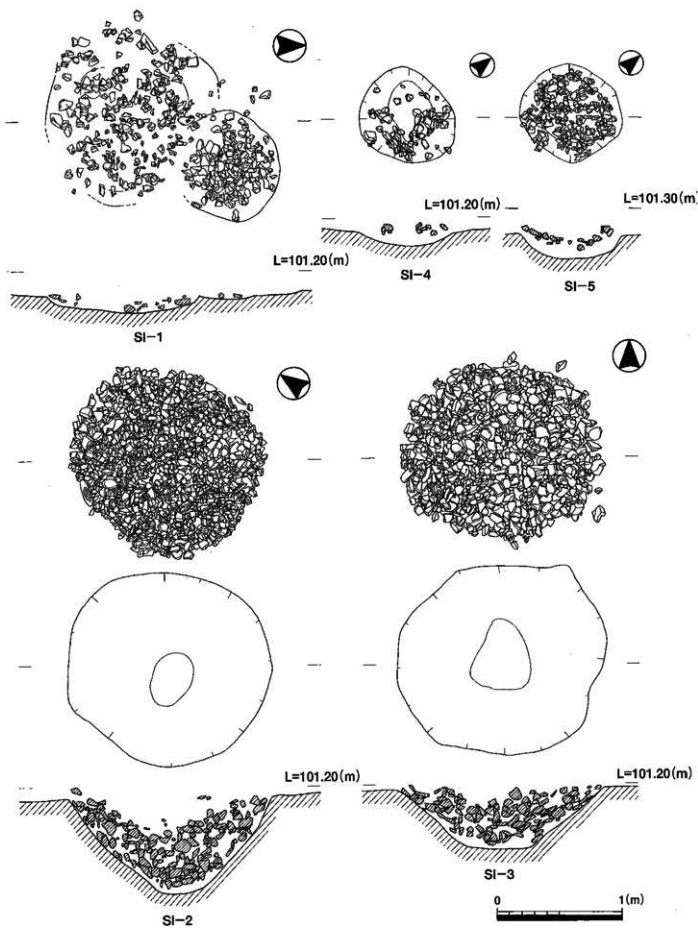
図版45 SC-1・2 検出



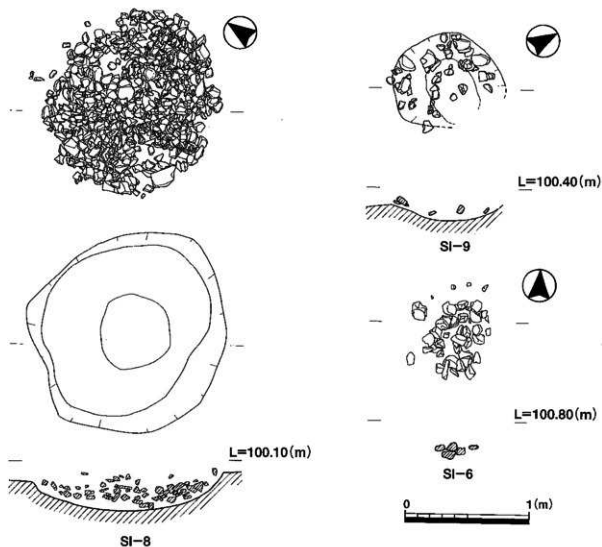
図版46 SC-1・2

### (2) 集石遺構

集石遺構は計9基検出された。SI-1～4の5基については、現代耕作の削平によりシラス上面まで露出した範囲で検出されたが、遺構の残存状態は割に良好であった。これは5基が構築された地形の傾斜がきつく各層の堆積が薄いため、集石遺構が使用された際の掘り込み面からシラスまでの深さが比較的浅く、そのため遺構がシラスまで掘り込む状態で構築されたためだと推測される。又、SI-1～5については、白ヶ野第1遺跡でもみられたように、大型の集石遺構の周りに小型の集石遺構が構築されていて、これらは互いになんらかの関係をもちつつほぼ同時期に使用されたものと推測される。SI-6・SI-8については縄文時代早期のものであるが、SI-1～5との関係は不明である。



第31图 SI-1、2、3、4、5实测图 (1/30)



第32図 SI-6、8、9実測図 (1/30)

第13表 白ヶ野第4遺跡集石遺構観察表

NO	検出面	時期	C14年代	環範囲の直径(m)	総環数(個)	総重量(kg)	環1個重量(kg)	掘込有無	上端直径(m)	掘込みの深さ(m)	環分布状況	底石有無	炭化物有無
SI-1(1)	㊟	早期	8220	1.16	630	60	0.10	有	1.2	0.2	極密	無	有
SI-1(2)	㊟	早期		0.76	-	-	-	有	0.76	0.1	疎	無	炭化粒のみ
SI-2	㊟	早期	8270	1.6	4870	652	0.13	有	1.66	0.83	極密	無	有
SI-3	㊟	早期		1.6	2620	337	0.13	有	1.64	0.55	極密	無	炭化粒のみ
SI-4	㊟	早期		0.7	127	6	0.05	有	0.78	0.2	極疎	無	炭化粒のみ
SI-5	㊟	早期		0.76	363	20	0.06	有	0.82	0.25	疎	無	炭化粒のみ
SI-6	㊟	早期		0.76	-	-	-	無	-	-	極疎	無	無
SI-8	㊟	早期		1.44	-	-	-	有	1.6	0.3	密	無	炭化粒のみ
SI-9	㊟	早期		0.86	62	12	0.19	有	0.9	0.17	極疎	無	炭化粒のみ

\*検出面については、第3図(P6)の層位番号を参照



図版47 白ヶ野第4遺跡集石群



図版50 SI-2 ①



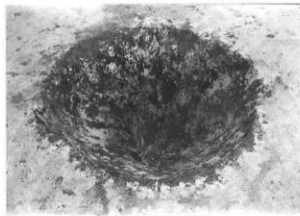
図版48 SI-1 (1)・(2)



図版51 SI-2 ②



図版49 SI-3



図版52 SI-2 ③



图版53 SI-4



图版54 SI-5



图版55 SI-6



图版56 SI-8



图版57 SI-9



图版58 石製腕輪出土状況

### 第3節 包含層出土の遺物について

#### (1) 縄文土器

土器は早期中葉から早期末までのものがほとんどで、5層上位から6層下位にかけて出土している。各時期の遺物が各層から出土するわけではなく、すべてが混在する状況で出土している。これらは大別して貝殻文系土器（A類）、押型文系土器（B類）、平椀式土器（C類）、塞ノ神式土器（D類）、貝殻条痕土器（E類）の5類に分類可能で、それぞれの特徴は以下のとおりである。

#### A類（1～24）

A類は貝殻による施文と円筒形を呈する深鉢形の器形を特徴とする。これらはさらにA(1)類からA(5)類に細分化した。

A(1)類は、外面に貝殻条痕文を施し、1～3については口縁部外面に刻み目あるいは刺突文を施している。また1～4・8についてはバケツ状に近い形状となるが、5～7については口縁端部がゆるやかに外反する。

A(2)類は、外面に貝殻条痕文の地文を施しその後貝殻腹縁刺突文を施している。前平式土器と思われる（9）。

A(3)類は、いわゆる辻タイプといわれるもので、器面にハの字型の短沈線文を施す（10～12）。13・14は短沈線文に加えて沈線文を、15～17は短沈線文に加えて貝殻腹縁刺突文を施す。

A(4)類は、外面に貝殻腹縁刺突文を施すもので、下剥峯式土器と思われる（18～24）。

A(3)類とA(4)類については、互いの範疇が不確定な部分が多少あるため、分類に今後さらなる検討を重ねる必要があろう。

#### B類（25～37）

B類は押型文土器で、B(1)類からB(4)類に細分化した。

B(1)類は、口縁部がゆるやかに外反するもので（25～30）、文様は山形押型文、楕円押型文いずれも施文されており、施文はすべて外面が縦方向、内面が横方向、口唇部が横方向である。また、形状についてはそれを考察できるだけの残存度を有する資料がほとんどないため、断定するのは困難である。

B(2)類は、口縁部がわずかに内湾するもので（31）、文様は外面に縦方向の山形押型文を施し、口唇部及び内面はナデ調整が行われている。

B(3)類は、楕円形の小さな突起物を有する棒状工具の回転によると見られるいわゆるネガティブ楕円文を施すもので、胴部1点（32）の出土で形状は不明である。B(4)類は、その他の押型文ですべて胴部である。（33～37）

#### C類（38～40）

C類は平椀式土器で、口縁部3点のみの出土である。いずれの土器片も形状を考察するに足りうる残存度は有していない。この3点をC(1)類とC(2)類に細分化した。

C(1)類は、口縁部の口唇下に小型の三角形の突帯を巡らすもので、その突帯には刻目状の沈線を、外面には沈線及び連点文を施している（38・39）。

C(2)類は、口縁部に幅広の薄手の肥厚帯をもつもので（40）、肥厚帯には沈線文

(直線・弧状)と刺突文を施している。

#### D類 (41~58)

D類は塞ノ神式土器で、撚糸文系と貝殻文系に分けられる。ここでは撚糸文系がD(1)類、貝殻文系がD(2)類、それ以外をD(3)類と細分化した。

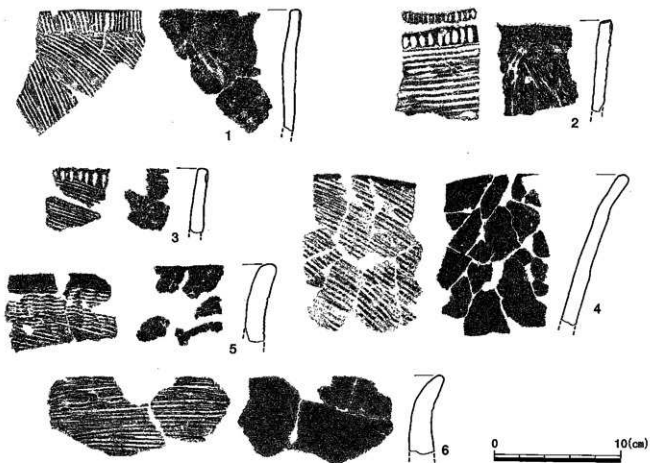
D(1)類は、そのほとんどが円筒形の胴部にラッパ状に開いた口縁部がつくものと推測される。外面には撚糸文に加え沈線文を施し、内面はナデ調整を行っている。

D(2)類は、ラッパ状に外反する口縁部 (49~52) と張りのやや弱い胴部につながる頸部 (53~55) が出土している。49・51・52は外面に貝殻腹縁による刺突文、50はそれに加え棒状工具による沈線文を施しており、50・52は口唇部に貝殻腹縁による刻目状の刺突文を施している。53~55については、外面に貝殻腹縁による刺突文と棒状工具による沈線文を施している。

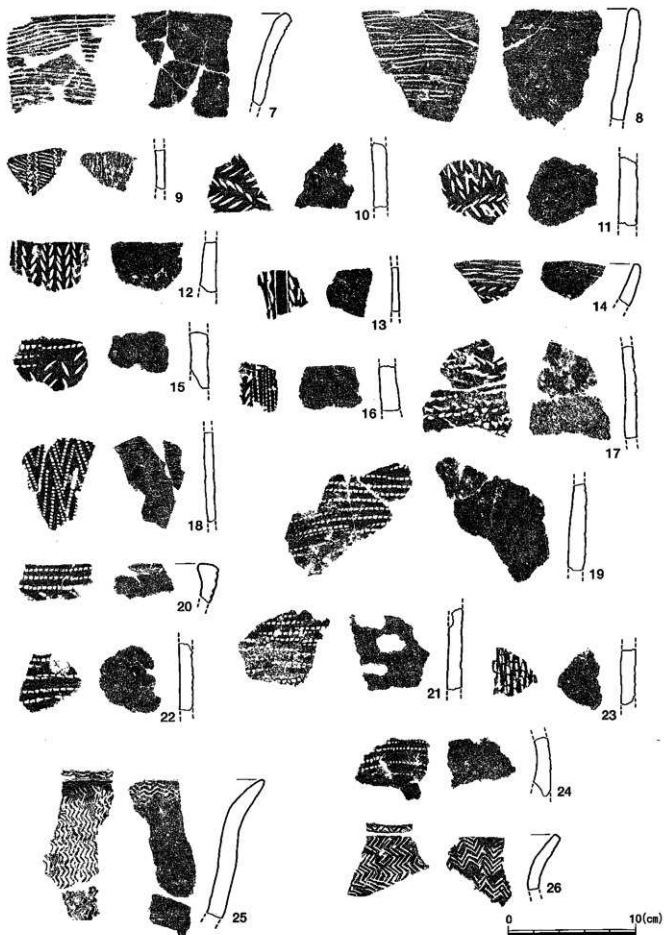
D(3)類は、塞ノ神式土器ではあるがD(1)類・D(2)類のいずれに属するものが不明なものである。(56~58)。56については唯一の底部であるが、やや上げ底気味の平底である。

#### E類 (59~66)

E類は外面に貝殻条痕文を施し、内面は貝殻条痕文のあとナデ調整を施している一群である。

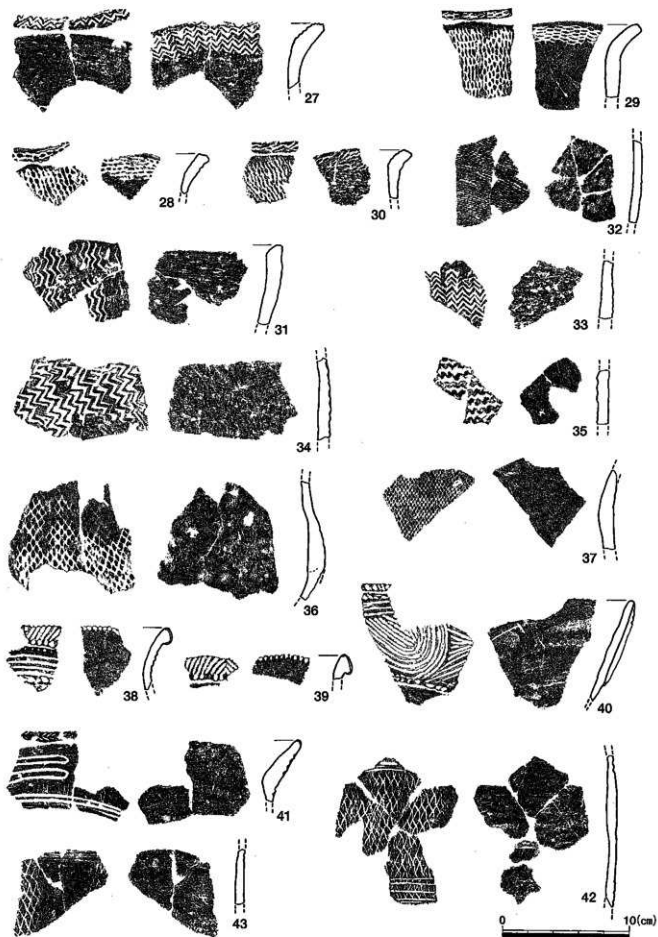


第33図 包含層出土縄文土器実測図 (1) (1/3)

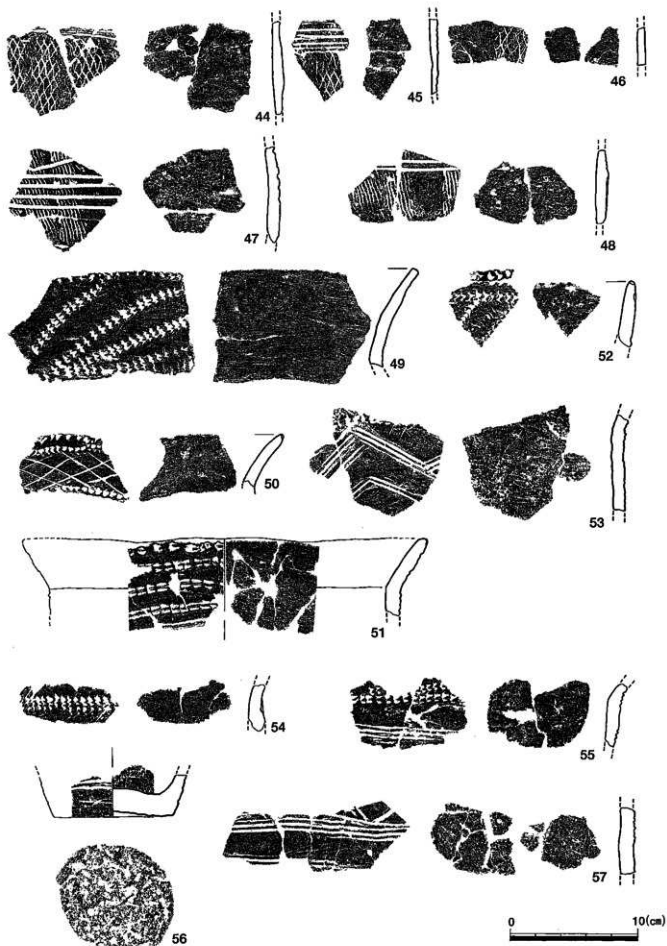


第34图 包含层出土绳文土器实测图(2)(1/3)

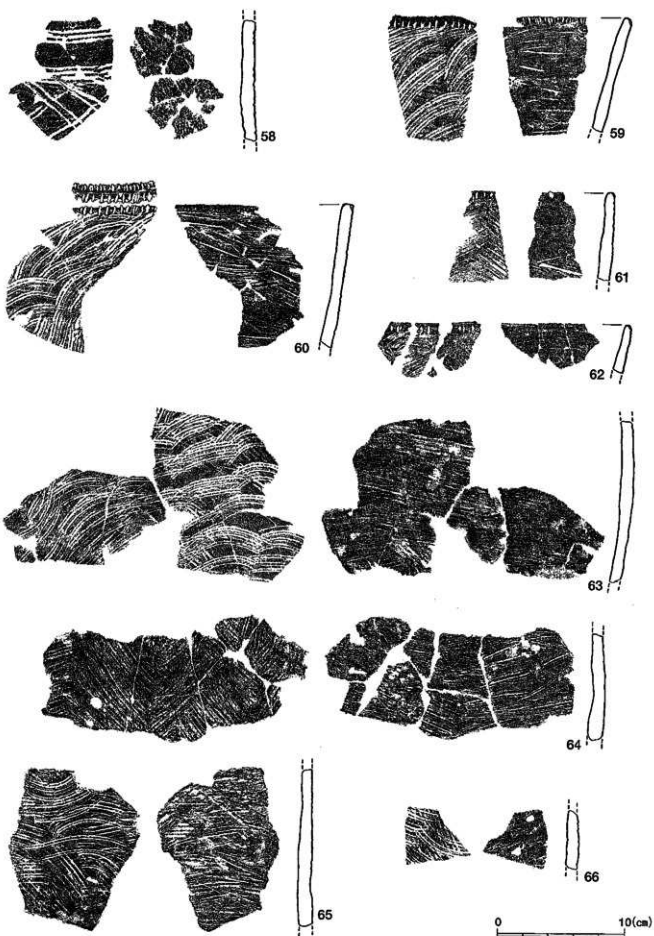




第35圖 包含層出土縄文土器実測圖(3)(1/3)



第36图 包含層出土縄文土器実測图 (4) (1/3)



第37图 包含层出土绳文土器实测图(5)(1/3)

第14表 包含層出土縄文土器観察表(1)

NO	発掘調査番号	出土層位	分類	部位	文様及び調整				色		土				備考
					外面	内面	外面	内面	石灰	黒石	キョウコンモ	タロウコンモ	砂粒		
1	20	㊸	A(1)	口縁部	ナデ	5YR7/2	5YR7/2						○	口縁部がナデ	
					具線条状文	明確灰	明確灰						1mm以下		
2	110	㊸	A(1)	口縁部	ナデ	10YR5/4	7.5YR5/4				○		○	石小式土器(1) 口縁部が連続磨白	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
3	117	㊸	A(1)	口縁部	ナデ	10YR4/2	10YR5/3			○				口縁部がナデ	
					具線条状文	灰黄褐色	にぶい黄褐色						1mm以下		
4	19	㊸	A(1)	口縁部	ナデ	10YR6/3	10YR7/1							口縁部がナデ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	灰白						1mm以下		
5	98	㊸	A(1)	口縁部	ナデ	10YR5/3	10YR5/3							口縁部がナデ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
6	128	㊸	A(1)	口縁部	ナデ	10YR6/3	10YR6/4					○		口縁部がナデ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
7	133	㊸	A(1)	口縁部	ナデ	10YR6/3	10YR6/3							口縁部がナデ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						1mm以下		
8	138	㊸	A(1)	口縁部	ナデ	10YR6/4	7.5YR5/4							口縁部が窪いナデ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						1mm以下		
9	24	㊸	A(2)	胴部	ナデ	10YR7/2	5YR7/2					○		黄平式土器	
					具線条状文	にぶい黄褐色	明細灰						2mm以下		
10	62	㊸	A(3)	胴部	ナデ	7.5YR5/3	10YR4/2							辻タイプ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	灰黄褐色						3mm以下		
11	70	㊸	A(3)	胴部	ナデ	7.5YR5/4	10YR4/2				○			辻タイプ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	灰黄褐色						3mm以下		
12	71	㊸	A(3)	胴部	ナデ	7.5YR4/2	10YR4/2							辻タイプ	
					具線条状文	灰黄褐色	灰黄褐色						3mm以下		
13	45	㊸	A(3)	胴部	ナデ	7.5YR5/4	7.5YR5/4					○		辻タイプ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
14	26	㊸	A(3)	胴部	ナデ	5YR5/4	5YR5/4					○		辻タイプ 口縁部がナデ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						1mm以下		
15	69	㊸	A(3)	胴部	ナデ	7.5YR4/3	7.5YR5/4					○		辻タイプ	
					具線条状文	黄褐色	にぶい黄褐色						3mm以下		
16	72	㊸	A(3)	胴部	ナデ	10YR4/2	7.5YR4/3					○		辻タイプ	
					具線条状文	灰黄褐色	黄褐色						5mm以下		
17	66	㊸	A(3)	胴部	ナデ	10YR5/3	10YR5/3							辻タイプ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
18	22	㊸	A(4)	胴部	ナデ	7.5YR4/3	7.5YR5/4					○		下層式土器	
					具線条状文	黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
19	61	㊸	A(4)	胴部	ナデ	7.5YR5/4	7.5YR5/4							下層式土器	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						3mm以下		
20	85	㊸	A(4)	口縁部	ナデ	7.5YR5/3	7.5YR4/3							下層式土器 口縁部がナデ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	黄褐色						3mm以下		
21	67	㊸	A(4)	胴部	ナデ	10YR5/3	10YR5/3							下層式土器	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						3mm以下		
22	66	㊸	A(4)	胴部	ナデ	5YR5/4	7.5YR5/3							下層式土器 胴縁有り	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
23	73	㊸	A(4)	胴部	ナデ	7.5YR5/3	7.5YR5/4							下層式土器	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
24	74	㊸	A(4)	胴部	ナデ	7.5YR5/3	10YR4/2				○	○		下層式土器	
					具線条状文	にぶい黄褐色	灰黄褐色						3mm以下		
25	17	㊸	B(1)	口縁部	ナデ	10YR4/2	5YR5/4					○		口縁部に山形押型文(3コ)	
					具線条状文	灰黄褐色	にぶい黄褐色						3mm以下		
26	32	㊸	B(1)	口縁部	ナデ	7.5YR5/3	10YR5/3					○		口縁部に山形押型文(2コ)	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
27	35	㊸	B(1)	口縁部	ナデ	10YR5/3	10YR5/3					○		口縁部に山形押型文(2コ)	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						3mm以下		
28	18	㊸	B(1)	口縁部	ナデ	10YR5/3	10YR5/3							口縁部に横円押型文(3コ)	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
29	37	㊸	B(1)	口縁部	ナデ	10YR4/2	10YR4/2							口縁部に横円押型文(2コ) 胴縁有り	
					具線条状文	灰黄褐色	灰黄褐色						2mm以下		
30	30	㊸	B(1)	口縁部	ナデ	10YR4/3	10YR5/3					○		口縁部に横円押型文(2コ)	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						2mm以下		
31	30	㊸	B(2)	口縁部	ナデ	5YR4/3	7.5YR4/2							口縁部がナデ	
					具線条状文	にぶい黄褐色	灰黄褐色						3mm以下		
32	136	㊸	B(3)	胴部	ナデ	10YR5/2	10YR5/3					○		2mm以下	
					具線条状文	灰黄褐色	にぶい黄褐色						3mm以下		
33	31	㊸	B(4)	胴部	ナデ	10YR5/3	10YR5/2							2mm以下	
					具線条状文	にぶい黄褐色	灰黄褐色						2mm以下		
34	34	㊸	B(4)	胴部	ナデ	10YR5/3	10YR5/3							2mm以下	
					具線条状文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色						5mm以下		

※出土層位については、第3頁(P6)の層位番号を参照

第15表 包倉層出土縄文土器観表(2)

NO	器物整理番号	出土層位	分類	部位	文様及び調査				色 調				胎 土				備 考
					外 面	内 面	外 面	内 面	石 灰	長 石	ネンクワンモ	タロウコンモ	緑 紋				
35	44	④	B(4)	胴部	山形押型文	ヘラナデ	10YR5/3 に灰黄褐色	10YR5/3 に灰黄褐色	○			○	○	1mm以下			
36	38	④	B(4)	胴部	山形押型文 ナデ	ナデ	2.5Y6/2 暗灰黄	10YR5/3 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下			
37	40	④	B(4)	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR4/3 黄	7.5YR5/3 に灰黄褐色	○		○	○	○	4mm以下			
38	15	④	C(1)	口縁	山形・3線状 沈線・点状文	ナデ	10YR5/3 に灰黄褐色	10YR5/3 に灰黄褐色	○	○		○	○	2mm以下	平形式土器 山形部に沈線文		
39	16	④	C(2)	口縁	山形・3線状 沈線・点状文	ナデ	7.5YR4/2 灰黄	10YR5/3 に灰黄褐色	○	○		○	○	2mm以下	平形式土器 口唇部に沈線文		
40	12	④	C(2)	口縁	山形・3線状 沈線・点状文	ナデ	10YR5/3 に灰黄褐色	7.5YR5/4 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	平形式土器		
41	59	④	D(1)	口縁	無文 沈線文	ナデ	10YR5/3 に灰黄褐色	2.5Y6/3 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(無文系) 口唇部に沈線文(陶肉)		
42	13	④	D(1)	胴部	無文 沈線文	ナデ	10YR5/3 に灰黄褐色	10YR6/3 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(無文系)		
43	52	④	D(1)	胴部	無文 沈線文	ナデ	2.5Y6/2 灰黄	10YR6/4 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(無文系)		
44	53	④	D(1)	胴部	無文 沈線文	ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	2.5Y6/2 灰黄	○			○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(無文系)		
45	54	④	D(1)	胴部	無文 沈線文	ナデ	10YR7/3 に灰黄褐色	10YR7/3 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(無文系)		
46	57	④	D(1)	胴部	無文	ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/3 に灰黄褐色	○	○		○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(無文系)		
47	77	④	D(1)	胴部	無文 沈線文	ナデ	10YR5/4 に灰黄褐色	10YR5/3 に灰黄褐色	○			○	○	1mm以下	蓋ノ神式土器(無文系)		
48	87	④	D(1)	胴部	無文 沈線文	ナデ	10YR6/3 に灰黄褐色	10YR6/4 に灰黄褐色	○			○	○	1mm以下	蓋ノ神式土器(無文系) 陶肉有り		
49	10	④	D(2)	口縁	ナデ 具段線刻文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 に灰黄褐色	○		○	○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(具段文系) 口唇部がナデ		
50	11	④	D(2)	口縁	ナデ 具段線刻文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	7.5YR4/3 黄	○		○	○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(具段文系) 口唇部に具段線刻文		
51	58	④	D(2)	口縁	ナデ 具段線刻文	ナデ	10YR5/3 に灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	○	○		○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(具段文系) 口縁2mm		
52	84	④	D(2)	口縁	具段線刻文+ナデ 具段線刻文	ナデ	10YR5/3 に灰黄褐色	7.5YR5/3 に灰黄褐色	○	○	○	○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(具段文系) 口唇部に具段線刻による利突		
53	75	④	D(2)	胴部	具段線刻文 沈線文	ナデ	10YR5/3 に灰黄褐色	10YR5/3 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(具段文系)		
54	80	④	D(2)	胴部	具段線刻文 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(具段文系)		
55	85	④	D(2)	胴部	具段線刻文 沈線文	ナデ	10YR5/3 に灰黄褐色	10YR4/3 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(具段文系)		
56	28	④	D(2)	底部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3 に灰黄褐色	10YR5/3 に灰黄褐色	○	○		○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(?)		
57	55	④	D(2)	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	○	○		○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(?)		
58	56	④	D(2)	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3 に灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	蓋ノ神式土器(?)		
59	21	⑤	E	口縁	具段条状文 ナデ	ナデ	2.5Y6/2 暗灰黄	2.5Y4/2 暗灰黄	○			○	○	2mm以下	口唇部に沈線刻目		
60	64	⑤	E	口縁	具段条状文 ナデ	ナデ	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR4/2 灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	口唇部に沈線刻目		
61	102	⑤	E	胴部	具段条状文 ナデ	ナデ	7.5YR4/3 に灰黄褐色	7.5YR5/3 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	口唇部に沈線刻目		
62	111	⑤	E	口縁	具段条状文 ナデ	ナデ	7.5YR4/2 灰黄褐色	7.5YR5/3 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下	口唇部に沈線刻目		
63	94	⑤	H	胴部	具段条状文 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 に灰黄褐色	2.5Y6/2 暗灰黄	○			○	○	2mm以下			
64	99	⑤	E	胴部	具段条状文 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 に灰黄褐色	7.5YR5/4 に灰黄褐色	○			○	○	4mm以下			
65	100	⑤	E	胴部	具段条状文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 に灰黄褐色	10YR5/3 に灰黄褐色	○			○	○	2mm以下			
66	101	⑤	H	胴部	具段条状文 ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	○			○	○	1mm以下			

\*口上層位については、第3図(P6)の層位番号を参照

## (2) 石器

表土より採集された6の石匙(横匙)の他は、すべてが縄文時代早期の包含層から出土している。

出土した石器は、石鏃・石匙・石錐・石斧・石核・垂飾・腕輪・礫器・剥片などで、使用されている石材は黒曜石(姫島産・針尾産)・チャート・頁岩・砂岩が多い。

石鏃(1~5)は、石材が姫島産の黒曜石のものが多く、その他には流紋岩や頁岩が使用されており、平面形やえぐりの有無については様々なバリエーションが見られる。

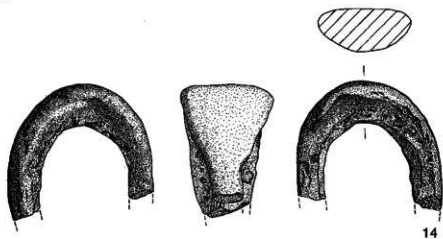
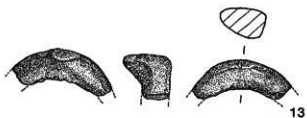
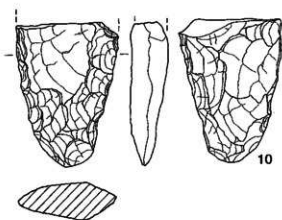
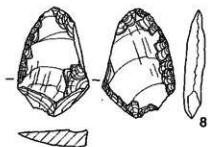
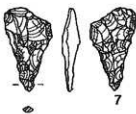
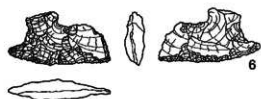
また6の石錐は安山岩、10の石斧はホルンフェルス、石核は砂岩(11)と頁岩(12)が使用されている。

13・14の腕輪については、ノジュールの化石の部分をくり貫いて作られた可能性が高く、9の垂飾は蛇紋岩を加工して作られている。

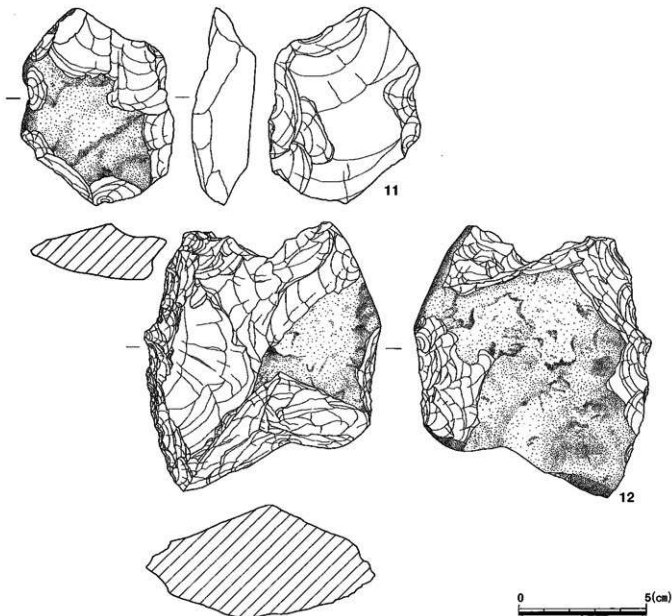
第16表 包含層出土石器計測表

NO	整理番号	器種	出土層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
1	5	石鏃	⑤~⑥	黒曜石	2.2	1.6	0.5	0.8	黒曜石の産地は長崎県針尾
2	7	石鏃	⑤~⑥	流紋岩	1.4	1.4	0.4	0.1	
3	145	石鏃	⑤~⑥	黒曜石	1.5	1.4	0.3	0.1	黒曜石の産地は大分県姫島、先端部・基部欠損
4	142	石鏃	⑤~⑥	黒曜石	1.8	1.9	0.5	0.9	
5	6	石鏃	⑤~⑥	黒曜石	1.9	1.3	0.4	0.4	黒曜石の産地は大分県姫島
6	9	石匙	表探	チャート	2.1	4.1	0.8	5.1	
7	8	石錐	⑤~⑥	安山岩	3.4	1.9	0.7	2.7	
8	144	石鏃(未製品)	⑤~⑥	頁岩	4.4	2.9	0.8	8.5	
9	4	垂飾	⑤~⑥	蛇紋岩	1.6	4.4	1.2	2.5	
10	143	石斧	⑤~⑥	ホルンフェルス	5.8	4.0	1.6	38.2	
11	141	石核	⑤~⑥	砂岩	7.9	6.0	2.6	107.0	
12	140	石核	⑤~⑥	頁岩	10.8	9.4	4.4	422.5	
13	3	腕輪	⑤~⑥	礫性砂岩	1.8	4.1	1.9	8.3	
14	2	腕輪	⑤~⑥	礫性砂岩	5.3	5.8	3.7	60.2	

\*出土層位については、第3図(P6)の層位番号を参照



第38图 包含层出土石器实测图(1)(2/3)



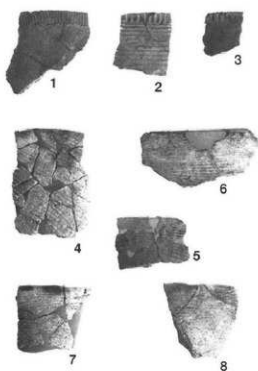
第39図 包含層出土石器実測図(2)(2/3)

#### 第4節 まとめ

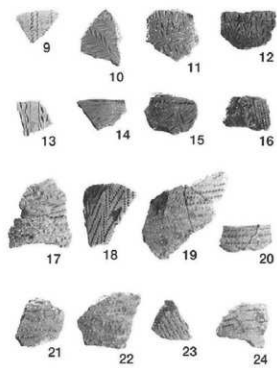
白ヶ野第4遺跡は、現代の耕作によりかなりの削平を受けており、縄文時代早期の包含層のみが残存する状況であった。又、その残存範囲は、当台地によく見られる水穴により陥没したのではないかとと思われる円形の窪んだ地形になっており、その影響からか縄文時代早期中葉から後葉にかけての遺物が混在して出土する状況であった。出土遺物のなかでは、特に垂飾と腕輪が縄文時代早期に当遺跡で暮らす人々の精神生活を知る上での貴重な資料であるが、同台地上の他の遺跡で出土した装身具とあわせてさらなる検討を加えていきたい。

遺構については、縄文時代早期の土坑と集石遺構が確認されており、特に集石遺構については、白ヶ野第1遺跡でもみられた大型のものの周りに小型のものが作られるケースが、白ヶ野第1遺跡を見下ろす当遺跡でもみられたのは非常に興味深い事実である。

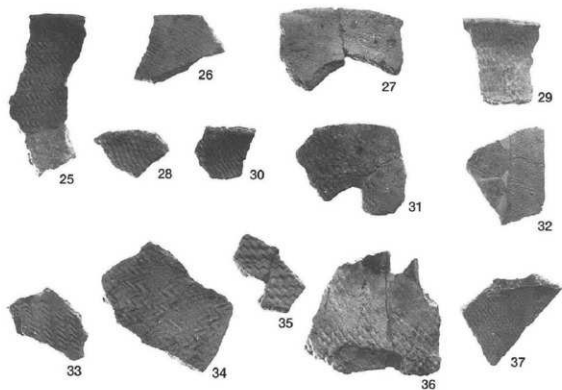




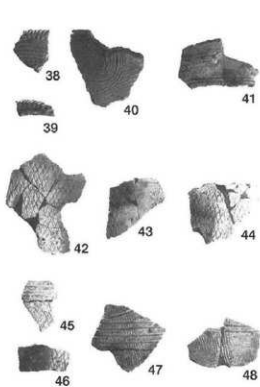
图版59 包含层出土绳文土器 (1)



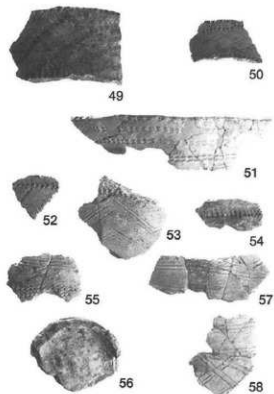
图版60 包含层出土绳文土器 (2)



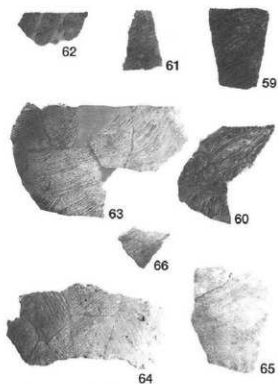
图版61 包含层出土绳文土器 (3)



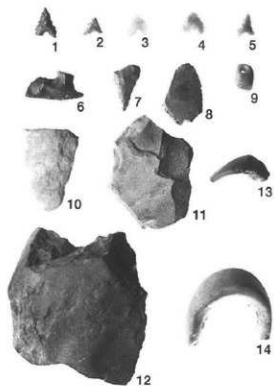
図版62 包含層出土縄文土器 (4)



図版63 包含層出土縄文土器 (5)



図版64 包含層出土縄文土器 (6)



図版65 包含層出土石器 (1)



# 自然科学分析調査報告書

— 清武町、白ヶ野第1遺跡 —

株式会社 古環境研究所



## I. 白ヶ野第1遺跡の土層とテフラ

## 1. はじめに

白ヶ野第1遺跡の発掘調査では、遺跡の位置する台地上に形成されたいわゆる火山灰土の良好な土層断面が作成された。そこで本遺跡において地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、起源が不明なテフラについて、テフラ検出分析と屈折率測定により示標テフラとの同定を行い、土層の堆積年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、深掘トレンチおよび40号土壌である。

## 2. 土層の層序

## (1) 深掘トレンチ

白ヶ野第1遺跡の基本的な土層断面が認められたこの地点では、下位より乳黄白色砂質細粒火砕流堆積物(層厚10cm以上)、暗褐色土(層厚24cm)、乳白色細粒火山灰層(層厚8cm)、暗褐色土(層厚4cm)、白色がかった褐色土(層厚4cm)、灰色がかった暗褐色土(層厚1cm)、黄色軽石層(層厚11cm、軽石の最大径7mm)、褐色土(層厚4cm)、黄色軽石に富む褐灰色砂層(層厚9cm)、灰色がかった暗褐色土(層厚33cm)、橙色細粒火山灰層(層厚4cm)、灰色がかった暗褐色土(層厚7cm)の連続が認められた(図1)。これらのうち、最下位の乳黄白色砂質細粒火砕流堆積物は、層相から約2.2-2.5万年前に蛤良カルデラから噴出した蛤良入戸火砕流堆積物(A-Ito, 荒牧, 1969, 町田・新井, 1976)に同定される。

最上位の灰色がかった暗褐色土の上面には、軽微な凹凸が認められ、この層準に不整合の存在する可能性が考えられる。この軽微な凹凸の上位には、さらに下位より褐色土(層厚19cm)、褐色土のブロック混じり暗褐色土(層厚9cm)、黒褐色土(層厚9cm)、黄色粗粒火山灰混じり黒色土(層厚9cm)、黒色土(層厚7cm)、成層したテフラ層(層厚25cm)、暗褐色土(層厚12cm)、褐色土(層厚23cm)、黒灰色表土(層厚15cm)が認められる。

これらの土層のうち、成層したテフラ層は、下部の黄橙色軽石層(層厚3cm、

軽石の最大径4mm、石質岩片の最大径3mm)、黄橙色細粒火山灰層(層厚22cm)から構成されている。このテフラ層は、その層相から約6,300年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 町田・新井, 1978)に同定される。

## (2) 40号土壌

40号土壌の覆土は、下位より暗褐色土(層厚57cm)と砂質褐色土(層厚13cm)からなる(図2)。

## 3. テフラ検出分析

### (1) 分析試料と分析方法

深掘トレンチおよび40号土壌において、テフラ粒子が認められた6点の試料について、テフラ検出分析を行って示標テフラの検出同定を試みた。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。深掘トレンチ試料番号5および4には、平板状のいわゆるバブル型ガラスが多く含まれている。繊維束状の軽石型ガラスも少量認められる。火山ガラスの色調は透明で、淡褐色の火山ガラスも少量含まれる。これらの火山ガラスは、その特徴から、A-Itoあるいはそのco-ignimbrite ashである蛤良Tn火山灰(AT, 町田, 1976)に由来するものと思われる。試料番号5および4の土層ともに、層理が認められないことから、これらのテフラを起源とする風成再堆積層の可能性が大きい。

試料番号3には、黄色軽石(最大径7.1mm)が多く認められた。また試料番号2は細粒で、軽石やスコリアなどを検出することはできなかった。さらに試料番号1には、バブル型ガラスや繊維束状の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。火山ガラスの色調は、透明や淡褐色である。これらの火山ガラスは、その特徴から、下位にあるA-ItoやATに由来すると思われる。

40号土壌試料番号1には、暗褐色スコリア(最大径4.8mm)が多く含まれている。

このスコリアは、その岩相から従来788(延暦7)年に霧島火山御鉢火口から噴出したと考えられ、霧島延暦御鉢テフラ(Kr-0hE, 町田・新井, 1992)と命名されてきた霧島高原スコリア(Kr-ThS, 井ノ上, 1988, 早田, 1996印刷中)に由来すると考えられる。このテフラについては、最近加速器質量分析法による放射性炭素年代測定の結果などから、10-13世紀の可能性が指摘されている(奥野, 1996)。

#### 4. 屈折率測定

##### (1) 測定試料と測定方法

深掘トレンテの試料番号1、2、3について、位相差法(新井, 1972)によって屈折率測定を行い、従来噴出年代の知られている示標テフラとの同定精度をさらに向上させることにした。

##### (2) 測定結果

屈折率の測定結果を表2に示す。試料番号3には、重鉱物として、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率( $\gamma$ )は、1.705-1.707である。このテフラについては、層相も合わせると、約1.4-1.6万年前に霧島火山から噴出した霧島小林軽石(Kr-Kb, 伊田ほか, 1956, 町田・新井, 1992, 早田, 1996印刷中)に同定される。

試料番号2には、斜方輝石のほかに少量の単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率( $\gamma$ )は、1.706-1.712である。このテフラは、層相および斜方輝石の屈折率などから、約1.1万年前に桜島火山から噴出した桜島薩摩テフラ(Sz-S, 小林, 1986, 町田・新井, 1992)に同定される。

さらに試料番号1にも、重鉱物として斜方輝石のほかに少量の単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率( $\gamma$ )は、1.706-1.711である。このテフラは、岩相、層位さらに斜方輝石の屈折率などから、桜島嫁坂軽石(Sz-Ym, 早田, 1996印刷中)に由来すると考えられる。おそらく桜島末吉軽石(Sk-Sb, 森脇, 1994)と呼ばれている約6,500年前のテフラに同定されると考えられる。

#### 5. 小結

白ヶ野第1遺跡の土層の堆積年代に関する資料を収集するために、地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行った。その結果、下位より始良入戸火砕流堆積物(A-Ito, 約2.2-2.5万年前)、霧島小林軽石(Kr-Kb, 約1.4-1.6万年前)、



桜島薩摩テフラ (Sz-S, 約1.1万年前)、桜島嫁板軽石 (Sz-Ym)、鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 約6,300年前)、霧島高原スコリア (Kr-ThS, 10-13世紀) を検出することができた。とくにKr-ThSとの層位関係から、40号土壌の構築は13世紀以前と推定される。

#### 文献

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 荒牧重雄 (1969) 鹿児島県国分地域の火砕流堆積物。地質雑, 75, p.425-442.
- 伊田一善・本島公司・安国 昇 (1956) 宮崎県小林市付近の天然ガス調査報告。地調報告, 168, p.1-44.
- 井ノ上幸造 (1988) 霧島火山群高千穂複合火山の噴火活動史。岩鉱, 83, p.26-41.
- 小林哲夫 (1986) 桜島火山の形成史と火砕流。文部省科研費自然災害特別研究「火山噴火に伴う乾燥粉体流(火砕流等)の特質と災害」(研究代表者 荒牧重雄), p.137-163.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布するテフラ—始良Tn火山灰の発見とその意義。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—鬼界アカホヤ火山灰。第四紀研究, 17, p.243-263.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 森脇 広 (1994) 桜島テフラ—層序・分布と粗粒火山灰層の層位—。文部省科研費研究成果報告書「鹿児島湾周辺における第四紀後期の粗粒火山灰層にかんする古環境学的研究」, p.1-20.
- 奥野 充 (1996) 南九州の第四紀末テフラの加速器<sup>14</sup>C年代(予報)。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, VII, p.89-116.
- 早田 勉 (1996印刷中) 宮崎県のテフラ。宮崎県史。

表1 白ヶ野第1遺跡におけるテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
深掘	1	-	-	-	++	bw>pm	透明, 淡褐
	2	-	-	-	-	-	-
	3	+++	黄	7.1	-	-	-
	4	-	-	-	+++	bw>pm	透明, 淡褐
	5	-	-	-	+++	bw>pm	透明, 淡褐
-----							
40号土壌	1	+++	暗褐	4.8	-	-	-

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない. 最大径の単位は, mm.

表2 白ヶ野第1遺跡における屈折率測定結果

試料	重鉱物	火山ガラスの屈折率 (n)	斜方輝石の屈折率 (γ)
1	opx>cpx	-	1.706-1.711
2	opx>cpx	-	1.706-1.712
3	opx, cpx	-	1.705-1.707

opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 角閃石. 屈折率の測定は, 位相差法 (新井, 1972) による. ( ) の数字は中央値を示す.

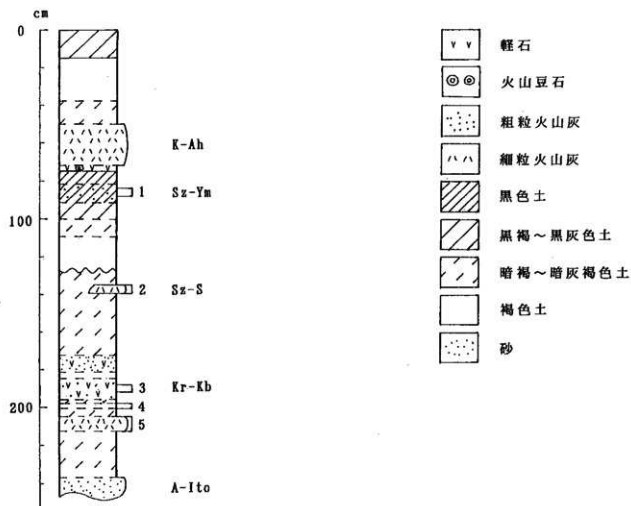


図1 深掘トレンチの土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

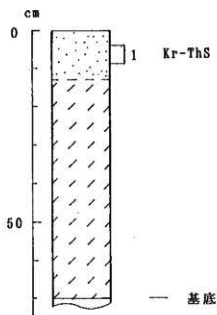


図2 40号土坑の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

## II. 白ヶ野第1遺跡における放射性炭素年代測定結果

### 1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	霧島小林軽石直下層	土壌	酸洗浄 石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No 2	蛤良入戸火砕流堆積物直上層	土壌	酸洗浄 低濃度処理 ベンゼン合成	$\beta$ 線法

### 2. 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代 交点(1 $\sigma$ )	測定No (Beta-)
No 1	13050 $\pm$ 60	-23.8	13070 $\pm$ 60	-	992014
No 2	14390 $\pm$ 100	-24.9	14390 $\pm$ 100	-	992015

#### 1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は5,568年を用いた。

#### 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

#### 3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

#### 4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動を補正することにより算出した年代(西暦)。補正には年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い試料には適用できない。

### Ⅲ. 白ヶ野第1遺跡における植物珪酸体分析

#### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 1987)。

#### 2. 試料

試料は、深掘トレンチのK-Ahの上層からKr-Kbの下層までの層準から採取された計17点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

#### 3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾 ( $105^\circ\text{C} \cdot 24$ 時間)
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスビーズ添加 (直径約 $40\mu\text{m}$ ・約0.02g)  
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法 ( $550^\circ\text{C} \cdot 6$ 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散 ( $300\text{W} \cdot 42\text{kHz} \cdot 10$ 分間)
- 5) 沈底法による微粒子 ( $20\mu\text{m}$ 以下) 除去、乾燥
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:  $10^{-8}\text{g}$ ) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。ヨシ属 (ヨシ) の換算係数は6.31、スス

キ属型（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属は0.75である。

#### 4. 分析結果

##### (1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

##### 〔イネ科〕

機動細胞由来：キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族、Bタイプ、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（おもにクマザサ属）、メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキウチク節、ヤダケ属）、タケ亜科（未分類等）

その他：表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、基部起源、未分類等

##### 〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、クスノキ科、クスノキ科（タブノキ？）、マンサク科（イスノキ属）、その他

##### (2) 植物珪酸体の検出状況

K-Ahの上層（試料1）からKr-Kbの下層（試料17）までの層準について分析を行った。その結果、Kr-Kbより下位層（試料13~17）では、イネ科Bタイプが多量に検出され、キビ族型やウシクサ族、クマザサ属型、棒状珪酸体なども検出された。Kr-Kbの上層（試料11、12）では、各分類群とも大幅に減少している。Sz-Sの下層（試料10）ではウシクサ族、クマザサ属型、棒状珪酸体が増加し、Sz-S直上層（試料9）ではススキ属型やネザサ節型が出現している。Sz-Ym混層（試料5）からK-Ah直下層（試料4）にかけては、クマザサ属型の減少に伴ってネザサ節型が大幅に増加し、メダケ節型なども増加している。K-Ah層（試料3）では植物珪酸体はほとんど検出されなかった。K-Ahの上層（試料2）では、ネザサ節型が比較的多く検出され、ススキ属型、ウシクサ族、メダケ節型なども検出された。また、同層ではブナ科（シイ属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）などの樹木（照葉樹）が出現している。試料1では、マンサク科（イスノキ属）が大幅に増加している。

おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、Sz-Sの下層からSz-Ymの下層にかけてはクマザサ属型が優勢であるが、Sz-Ym混層より上位ではネザサ節型が卓越していることが分かる。

#### 5. 植物珪酸体分析から推定される植生・環境

始良入戸火砕流堆積物（A-Ito, 約2.2-2.5万年前）の上層から霧島小林軽石（Kr-Kb, 約1.4-1.6万年前）の下層にかけては、イネ科Bタイプが多く生育するイネ科植生であり、キビ族やクマザサ属なども見られたものと推定される。イネ科Bタイプは氷期の低湿地堆積物などから一般的に検出されているが、その給源植物は現在のところ不明である。

桜島薩摩テフラ（Sz-S, 約1.1万年前）直下層の堆積当時は、少量ながらクマザサ属やウシクサ族、イネ科Bタイプなどが生育するイネ科植生であったと推定される。タケ亜科のうち、メダケ属ネザサ節とクマザサ属は一般に相反する出現傾向を示し、前者は温暖の、後者は寒冷の指標となっている（杉山・早田, 1996）。ここでは、クマザサ属が卓越していることから、当時は比較的寒冷な気候条件下で推移したものと推定される。その後、桜島薩摩テフラ直上層の時期には、ススキ属やチガヤ属、ネザサ節なども見られるようになったものと考えられる。クマザサ属は森林の林床でも生育が可能であるが、これらの分類群は日当りの悪い林床では生育が困難である。このことから、当時の遺跡周辺は森林で覆われたような状況ではなく比較的開かれた環境であったものと推定される。

桜島嫁板軽石（Sz-Ym）混層では、クマザサ属の減少に伴ってネザサ節が急激に増加し、メダケ節なども見られるようになったものと推定される。この植生変化は、後氷期初頭における急激な気候温暖化に対応しているものと考えられる。

その後、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah, 約6,300年前）の堆積によって、当時の植生は一時的に破壊されたと考えられるが、同テフラ直上層では比較的早い時期にネザサ節を主体としてススキ属なども見られるイネ科植生が再生したものと推定される。また、この時期には周辺でマンサク科（イスノキ属）、ブナ科（シイ属）、クスノキ科などの照葉樹林が成立したものと推定される。

花粉分析の結果によると、南九州の沿岸部では鬼界アカホヤ火山灰の堆積以前には、シイ林を中心とする照葉樹林が成立していたとされているが（松下, 1992）、本遺跡では照葉樹林の拡大がやや遅れたものと考えられる。今後、周辺地域で同様の検討を行うことにより、照葉樹林の存在や分布拡大の様相が解明されるもの

と期待される。

## 6. まとめ

植物珪酸体分析の結果、桜島薩摩テフラ (Sz-S, 約1.1万年前) の下層から上層にかけては、クマザサ属を主体としたイネ科植生が継続されていたが、桜島塚坂軽石 (Sz-Ym) 混層を境にネザサ節を主体としたイネ科植生に移行していることが確かめられた。この植生変化は、後水期初頭における気候温暖化に対応しているものと考えられる。その後、鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 約6,300年前) 直上層の時期には、周辺でイスノキ属、シイ属、クスノキ科などの照葉樹林が成立したものと推定される。

## 参考文献

- 杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点。植生史研究, 第2号, p.27-37.
- 杉山真二 (1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.
- 杉山真二・早田勉 (1994) 植物珪酸体分析による遺跡周辺の古環境推定 (第2報) -九州南部の台地上における照葉樹林の分布拡大の様相-。日本文化財科学会第11回大会研究発表要旨集, p.53-54.
- 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-。考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 松下まり子 (1992) 日本列島太平洋岸における完新世の照葉樹林発達史。第四紀研究, 31(5), p.375-387.



表1 清武町、白ヶ野第1遺跡の植物珪酸体分析結果

検出密度(単位: ×100個/g)

分類群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
イネ科																		
キビ族型					15	15	13	14							15	8		
ヨシ属					7	6	6		8						23			
ススキ属型	30	45		36	45	29	15	13	35									
ウシクサ族	45	91		123	136	184	229	162	104	42			44		15			
Bタイプ					7	22	45	48	85		53	215	244	714	487	333		
タケ亜科																		
ネザサ属型	226	287		472	864	95	6	7										
クマザサ属型				22	76	213	140	97	69	99	8	30	8	23	8			
メダケ属型	23	83		102	15	22	7											
未分類等	294	348		690	735	338	296	304	145	120	15	74		128	8			
その他のイネ科																		
表皮毛起源				15	22	30	65	28	14	30	15	30	15	30				
棒状珪酸体	527	643		799	894	793	621	666	568	451	8	38	415	61	413	46	38	
葉起源											8	22						
未分類等	512	605	8	726	750	595	554	589	498	430	8	151	408	76	474	93	45	
科未起源																		
ブナ科(シイ属)	90	23																
クスノキ科	15	15																
クスノキ科(タブノキ?)	8																	
マンサク科(イスノキ属)	588	227																
その他	15																	
植物珪酸体総数	2358	2383	8	2971	3532	2320	1929	1966	1516	1241	23	302	1223	382	1827	664	424	

おもな分類群の推定生産量(単位: kg/㎡・cm)

ヨシ属					0.46		0.41			0.48							1.42
ススキ属型	0.37	0.56		0.45	0.56	0.36	0.18	0.16	0.43								
ネザサ属型	1.08	1.38		2.27	4.15	0.46	0.03	0.03									
クマザサ属型				0.16	0.57	1.60	1.05	0.73	0.52	0.74	0.06	0.22					0.06
																	0.17

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

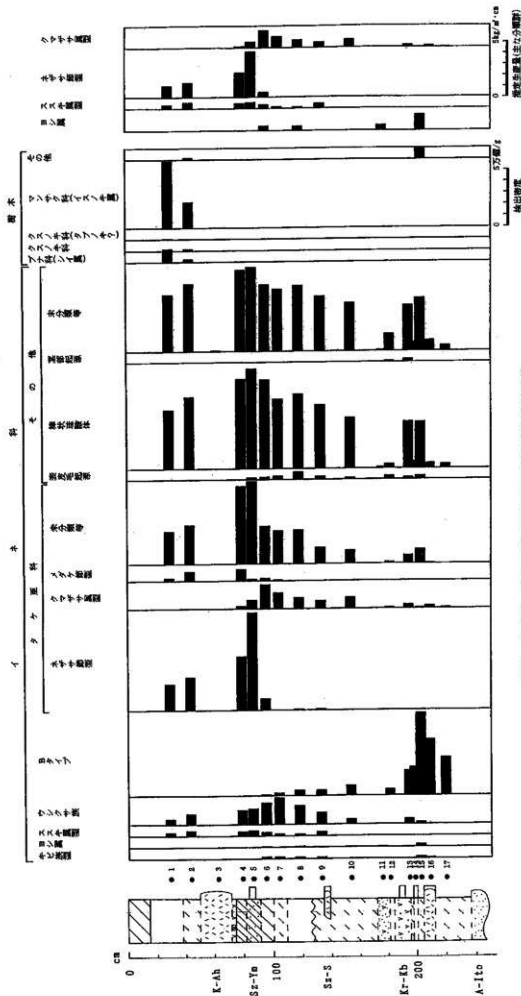


図1 清武町、白ヶ野第1遺跡の植物珪酸体分析結果

調 査 抄 録

ふりがな	ハッカノダイイチ・ダイヨンイセキ					
書 名	白ヶ野第1・第4遺跡					
副書名	県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書					
巻次	第1集					
シリーズ名	清武町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第13集					
編集者名	井 田 篤					
編集機関	清武町教育委員会					
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字船引字白ヶ野					
発行年月日	2004年3月					
所在遺跡名	所在地	市町村:遺跡番号	北緯	東経	調査期間	
白ヶ野第1	清武町大字船引 字白ヶ野	清武町:211	31°52'40	131°22'10	95.11.22~96.3.14	
白ヶ野第4		—	31°52'43	131°22'23	96.7.22~96.12.28	
調査面積	調査面積	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
17,200㎡	農業関連	集落	縄文・中世	土坑,集石遺構	縄文式土器	
1,900㎡			縄文	土坑,集石遺構	石器	

---

清武町埋蔵文化財調査報告書第13集

## 白ヶ野第1・第4遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

発行年月日 平成16年3月29日  
編集発行 清武町教育委員会  
〒889-1696 宮崎県宮崎郡清武町大字船引204  
TEL 0985-85-1111  
印刷 有限会社いろは企画  
〒889-1603 宮崎県宮崎郡清武町正手3丁目19-2  
TEL 0985-85-5889

---

